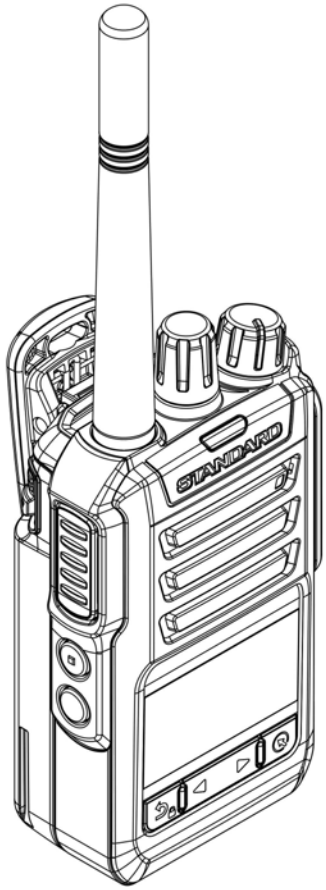
STANDARD

デジタル 82 チャンネル

Digital Convenience Radio
3R 3T 登録局

Digital
【 資格不要 】



携帯型デジタルトランシーバー

VXD30

取扱説明書

◎ 送信出力5W
◎ 陸上波 82 チャンネル
◎ 上空波 15 チャンネル受信可能
◎ 安心の 3 年保証
◎ 防塵防水性 IP67/MIL-STD-810G
完全防水ではありませんので、水中での使用はできません

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。

開発製造： 株式会社CSR
URL : http://standard-radio.jp

MN010401A01-AA

© 2023 株式会社CSR
無断転載・複写を禁ず

Printed in Malaysia

目 次

はじめに 4
無線局登録申請について 4
ご利用にあたって 4
アフターサービス 4
電波干渉について 4
免責事項 5
構成品 5
防水性能について 5
安全上のご注意 6
お使いになる前に 13
アンテナの取り付け 13
ベルトクリップの取り付け 13
ハンドストラップの取り付け 13
リチウムイオン電池パックについて 14
電池パックの取り付け / 取り外し 15
電池パックの充電方法 16
各部の名称と機能 18
デジタル簡易無線局について 20
チャンネル構成とコールチャンネル（ARIB 種別コード：3R 3T） 20
通信方式 20
通信時に動作する機能に関して 21
操作のしかた 22
通話のしかた（UC通信機能） 基礎編 22
キーロック機能 基礎編 24
キーロックの条件を変更 24
各機能の設定 25
簡易リスト 26
コールモード（拡張機能） 28
セットモード（拡張機能） 30
管理番号表示（拡張機能） 33
ユーザー同士で交信したい（UC通信機能） 応用編 34
盗聴されにくい交信をしたい（秘話機能） 応用編 36
個別に呼び出したい（個別通信機能） 応用編 38
個別通信とは 38
呼び出しのベル音回数設定と自局情報の確認 41
個別通信時に便利な機能 42
緊急アラーム機能 45

目 次

便利な機能 50
録音メモ機能 50
リピート再生 52
イコライザー機能 53
ノイズキャンセル機能 54
インテリジェントオーディオライト機能 54
セミ VOX オペレーション機能 （F17 セミ VOX オペレーション） 54
VOX 機能 55
スキャン機能 56
バックライト 59
音声案内 (ボイスチャンネルアナウンス) 59
ワンタッチで音量を下げる （F13 ワンタッチボリューム ） 60
必要に応じて使う機能 61
ピープ音量調整 （F01 ビープレベル） 61
ディスプレイのコントラスト調整 （F16 コントラスト ） 61
マイクレベルの調整 （F02、F03） 62
送信 (TX) ビープと受信 (RX) ビープ （F06、F07） 63
信号が極端に弱くなると知らせる （F09 弱電界アラーム） 64
電池パックが消耗するとアラームで知らせる （F12 電池アラーム ） 64
チャンネルが空いたとき通知する （F14 CH 空き通知 ） 65
オプションの電源供給 （F15 ACC 電源 ） 65
イヤホン / スピーカーマイクの特性補正 （F20 外部アクセサリタイプ） 66
外部マイクロホンの取り付け 66
送信出力の設定 （F08 送信出力 ） 67
適切なマイク感度に自動調整する （F19 TX AGC） 67
PTT をホールドタイプに変更する （F21 PTT ホールド） 68
プログラムキーの設定を変更する （F27 ～ F30） 69
上空用チャンネルをモニターする （F22 上空 CH） 70
電池パックの消耗を防ぐ （F26 スーパーセーブ） 70
2 時間オフタイマー （F31 自動電源 OFF） 71
拡張機能の設定を初期値に戻す （F32 設定リセット） 71
付 録 72
故障かな？と思う前に. 72
定 格 73
音声圧縮 (符号化) 方式について 73
オプション一覧表 74
キー操作早見表 75
索 引 76
保証書 ..... 表 3、表 4

はじめに

無線局登録申請について

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。
本機をご使用になる前に、別紙「無線局登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注 意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章110条に定められた罰則（一年以下の懲役又は百万円以下の罰金）が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

ご利用にあたって

◎ 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB 規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易トランシーバー（種別コード「3R 及び3T」）との互換性を確保しています。ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。
◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
◎ 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。

アフターサービス

◎ 正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店までご相談ください。

◎ 取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル（例：“-CH01-”と“-CH02-”）でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

登録商標について

本製品は、公式ライセンシーである 株式会社CSR により製造、配布または販売されています。Vertex Standard、Standard、およびデザイン化された VSロゴとSRロゴは、Vertex Standard Trademark Holdings, LLCの商標または登録商標であり、ライセンスに基づいて使用されています。その他すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

©2023 CSR, Inc. All rights reserved.

免責事項

◎ 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
◎ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

構成品

本体 (VXD30) 1
アンテナ※ (ATU-12J) 1
ベルトクリップ (CLIP-20) 1
リチウムイオン電池パック
(FNB-V145LI) 1
卓上充電器セット 1
(チャージャースタンド+ AC アダプタ)
MIC/SP 端子カバー 1
(本体に取り付け済み)
取扱説明書 (保証書裏表紙) 1
簡易操作ガイド 1
無線局登録申請書 1
無線局登録申請の手引き一式
※ : λ /4 短縮型、利得 2.14dB 以下

・ 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることをご確認ください。
・ 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

防水性について

本機は、IEC 国際規格 IP67(防塵等級 6※1、防水等級7※2) の防塵、防水性能を有しています。この防水性を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。製品本体の防水性能を維持するためには、異常の有無に関わらず保証期間経過後、1 年に一度のメンテナンスをお勧めします (有償にて承ります)。過失等、故障内容によっては、保証期間内においても有償修理の対象となる場合があります。

◎ キーのラバー、MIC/SP 端子カバー、防水シート、電池パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れ、剥がれがないか確認してください。
◎ 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水で洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
◎ 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
◎ 本機は、水中での使用はできません。

※1： 粉塵が内部に侵入しない。
※2： 加圧を加えない真水・静水に水深1mの位置で 30 分間没しても有害な影響を生じないこと。

安全上のご注意

■ ご注意

・この無線機は、職業上管理された状況での使用を意図した製品です。使用者は、自身の曝露に関する十分な知識を持ち、国際標準規格の職業曝露限度を守るよう自身の曝露を管理できる者を想定しています。一般消費者による本機の使用は認められていません。
・他人から頼まれて通信したり、他人の用件のために無線機を貸して使用することは電波法令で禁じられています。
・他人の通話を聞いて、これを漏らしたり悪用することは電波法令で禁じられています。
・本機は電波法令で定められた技術基準に適合（合格）していますので、分解や改造は電波法令で禁じられています。
・このデジタル簡易無線機は国内専用モデルです。海外では使用できません。

■ 本文中のマークの意味は次のようになっています。

⚠ **警告**	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠ **注意**	この表示は「人が障害を負う可能性が想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

■ 製品の安全性と電磁波による影響（携帯型無線機用）

本機を他の使用者に譲渡する場合には、使用者は、必ず本機の電磁波についての取り扱いが書かれた説明書（本書）を添えてください。

この無線機は、離れた２つの間の通信を提供するため、無線周波数帯の中の電磁エネルギー、すなわち電波を使用しています。無線通信用のエネルギーである高周波エネルギーは、電磁エネルギーの一形態であり、例えば日光やＸ線もその１つに含まれます。しかしながら、高周波エネルギーは、不適切に使用された場合に生物学的損傷を引き起こす可能性が高い電磁エネルギーと同じように考える必要はありません。（例えば、Ｘ線の非常に高いレベルは、組織および遺伝物質を損傷する可能性があります。）

当社の無線機は、以下の高周波エネルギーや電磁エネルギーのガイドラインに準拠しています。

・米国電気電子学会（IEEE）C95.1
・国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）

安全上のご注意

無線通信のための高周波エネルギーを安全に使用するため、科学、工学、医学、健康、そして産業分野に詳しい専門家が協力し、国際的な基準を策定しています。この基準はビジネスや一般的に使用される無線設備から放射される電波の推奨される値を提示しています。この値については、保護のため通常かなり余裕をもった値になっています。

すべての当社の無線機は、こうした国際基準の値を満たすように設計、製造、およびテストされています。さらに、無線機の製造業者も無線機を使用されるお客様に安全にお使いいただけるような操作手順をお勧めしています。これらは高周波エネルギーについての知識をお客様にご理解いただき、無線機を安全に使用する方法についての簡単な手順を提供するために非常に重要なことです。

電磁波エネルギー曝露限度（電波が人体に与える影響において、人体が受けても差し支えない限度）について国際基準に準拠するには、以下の手順に従ってください。

- 電磁波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。
- 送信している間、人体暴露を与えています。連続送信するなど、50% 送信比率を超えないようにしてください。
- 無線機本体やアンテナから鼻や唇が 2.5cm 以上離した状態で、無線機のマイクが顔の前に来るようにして持ちます。アンテナは目から離れた状態にしておく必要があります。
- 当社純正のオプションをご使用ください。

注 意

高周波エネルギー曝露は、アンテナからの距離の増加と共に減少します。

- 装着してのご使用について。人体に装着するときは、必ず、当社純正の本機専用のクリップ、ホルダー、ホルスター、またはケースに装着してお使いください。純正品以外のオプションをご使用になると、職業上管理された環境における高周波曝露の限界値を超える曝露レベルになる場合がありますので、純正の装着用オプションをお使いください。
- アンテナ、バッテリー、オーディオオプションについては、必ず当社純正の付属品または交換用品をお使いください。純正品以外のアンテナ、バッテリー、オプション（有線または無線）をご使用になると、適用される高周波曝露に関するガイドライン（IEEE、ICNIRP）を超える場合があります。

■ 航空機 / 医療機関について

機内、病院、および医療機関では外部電磁波エネルギーの影響を受けやすい機器を使用していることがあります。電源を切るよう指示されている場所では無線機の電源を切ってください。

安全上のご注意

■ ペースメーカー

米国先進医療技術工業会（Advanced Medical Technology Association）（AdvaMed）は、無線機とペースメーカーの間の距離を少なくとも 15cm は維持することを推奨しています。ペースメーカーを着用されている方は本機のご使用を控えてください。やむを得ず無線機を利用する場合は必ず、無線機を着用のペースメーカーから少なくとも 15cm 離しておいてください。
何らかの理由により、妨害が生じていることが疑われる場合には、すぐに無線機のスイッチをオフにしてください。
無線機からの干渉の潜在的なリスクについて、医師に相談してください（不十分シールド医療機器が干渉を受けやすくなる場合があります）。

■ 補聴器

無線機は、一部の補聴器に干渉することがあります。干渉する場合は、使用している補聴器メーカーに相談してください。

■ その他の医療機器

その他の個人用医療機器を使用する場合は、メーカーに相談してください。

■ 安全運転について

運転中に無線機を使用しないでください。
道路交通法、第 71 条第 5 号の 5 の規定により運転中に無線機を手に持って使用することは禁止されています。
事故の原因になりますので、まず安全な路肩に寄せ、停車してから、通信をおこなってください。または、ハンズフリー用純正オプションのご使用を推奨しています。

■ 音量について

大きな音が原因による聴覚の障害については、最初は自覚することなく、後になって感じられることがあります。長時間大音量で受信すると聴覚に影響を与えますので、最小限音量で、また短時間で使用してください。
聴覚を保護するには、次の事をお守りください。

- 最低限必要な音量で使用してください。
- 周囲の騒音で聞こえない時のみ、音量を大きくしてください。
- ヘッドセットまたはイヤホンを接続する時は、音量を下げてください。
- 長時間、大音量でヘッドセットやイヤホンを使用しないでください。
- ヘッドセットまたはイヤホンなしで無線機を使用する場合は、直接耳にスピーカーをあてないでください。

エアーバッグ

・エアーバッグの配線との干渉を避けるために、 無線機の設置場所を、車両の製造元マニュアルを参照してください。

・エアーバッグの部分、またはエアーバッグが膨らむ場所に無線機を置かないでください。エアーバッグは強い力で膨らみます。無線機がエアーバッグの膨らむ場所に置かれている場合、エアーバッグが膨らみますと無線機が強い力で押され、 車の搭乗者がけがをする原因となります。

発破区域での使用

・発破区域および雷管の近くでは無線機の電源を切ってください。

・爆発に影響を与えないよう、「発破危険」のように表示されている場所では、 無線機の電源を切ってください。

・爆発の恐れのある場所に立ち入る場合、 立ち入る前に無線機の電源を切ってください。

・爆発のおそれのある場所とは、 ボートのデッキの下などの燃料補給・貯蔵場所、 燃料や化学薬品の運送または貯蔵施設、 および、 空気中に穀物、 ほこりや金属粉末などの化学物質や粒子が含まれている領域など、 危険なガス、 蒸気、 または埃がある可能性があり、 危険であると分類され、 とりわけ爆発のおそれのある場所のことを言います。

・爆発の可能性がある場所での、 取り付け、 取り外し、 および充電をしないでください。 火花が散ることによってそれが爆発や火災の原因となり、 身体的な損傷や死亡につながる恐れがあります。

アンテナ

アンテナが壊れている無線機は使用しないでください。
壊れているアンテナの導体が皮膚に触れ、 送信した場合、 軽いやけどをすることがあります。

電池パック

すべての電池は、 物的損害または傷害を引き起こす可能性があります。 電池パックは、 金属製のものと共にポケットなどに入れたり金属ケースに入れないでください。 端子が他の金属製のものによりショートし、 火傷、 発火の危険があります。 危険環境下で電池パックを交換したり、 充電しないでください。 電池パックの脱着時に端子から火花が飛び、 爆発や火災の原因になることがあります。 不正な修理をおこなったり、 ラベルの貼り替えを行いますと、 その機器の認定が無効となることがあります。

安全上のご注意

静電気について

静電気が発生しやすい場所・条件でイヤホンをご使用される場合、静電気によって耳の皮膚に電気ショックを感じることがあります。そのような場合はイヤホンを使用しないようにしてください。

オプションについて

- 当社製機器は、ホームページのリストに掲載されるオプションが認定機関によって認定されています。オプションとの組み合わせは、厳密に遵守する必要があります。
- 接触不良の原因となりますので、オプションを使用しないときには、MIC/SP 端子カバーを付けてご使用ください。

■ その他の安全上の注意

運用場所について

ゴルフ場などの野外で無線機を使用中に雷鳴が聞こえた時は、落雷のおそれがありますので無線機を使用しないでください。

その他電子機器との混信

正しく設置されていない、また、十分にシールドされていない自動車の電子操作系統や娯楽用機器など、電磁波によって影響を受ける場合があります。その場合、それぞれの販売メーカーまたは販売店に、それらの設備が外部からの電磁波から適切にシールドされているかどうかご確認ください。また、自動車などに別途追加した設備についてもご確認ください。

衝撃

強い衝撃をあたえたり、投げつけたりしないでください。アンテナが破損することがありますので、無線機を持つときは、アンテナをつかまないでください。

使用環境

- 異常に温度が高くなるところや、直接雨や水のかかる場所に放置しないでください。変形や故障の原因になる場合があります。
- 直射日光のあたる場所（自動車内）や高温になる所、極端な低温環境に無線機本体を置かないでください。変形や故障の原因になる場合があります。

■ 電池パックの取扱いについて

重要：思わぬ怪我や損害を避けるために、電池パックの保管と取扱は適切に行ってください。

ほとんどの電池パックの問題は、不適切に取り扱ったか、もしくはダメージのある電池パックを使用し続けたことに原因があります。

下記のガイドラインに従ってご利用ください。

- 高温になる車の中などに充電池を放置しないでください。
- 電池パックを落とさないでください。電池パックを落とすことにより、特に固い床などでは、ダメージの潜在的な原因となります。
- 分解、押しつぶす、穴をあける、裁断する、もしくは電池パックの形状を変更するような試みはお止めください。
- 電池パックを水につからないようにしてください。水は電池パック内部の回路に侵入する場合があり、腐食などを引き起こします。
- 金属類を電池パックに触れないようにしてください。もし金属類、たとえば貴金属装飾品などが端子に長期間触れたままの場合、電池パックが高温になる場合があります。
- 高温になる熱源には近づけないでください。過度の熱は無線機や電池パックにダメージを与えます。高温はまた、電池パックが故障したり、液漏れ、膨張の原因になる場合があります。
- 濡れたり湿った電池パックをドライヤーや電子レンジのような家電製品、もしくは熱源などで乾かすのは決してしないでください。

■ 取扱い上のお願い

- 充電の際には専用の充電器を使用してください。
- 電池パックを使用しない場合には、無線機本体から外して湿気の少ない場所で保管してください。
- 電源端子・充電端子をときどき乾いた綿棒などで、清掃してください。汚れていると接触不良の原因となる場合があります。
- 無線機本体の清掃の際は、糸くずのつかない乾いた柔らかい布で汚れを落としてください。
- 無線機を直接、洗剤の溶液の中に入れるようなことは絶対にしないでください。
- 洗剤、溶剤、アルコールなどで無線機を清掃すると、無線機を傷つけたり破損したりすることがあります。

安全上のご注意

■ 防水性能について

本機は、IEC 国際規格 IP67（防塵等級 6※1、防水等級 7※2）の防塵、防水性能を有しています。この性能を末永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

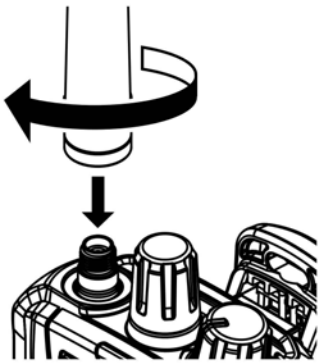
- キーやボタンのラバー、MIC/SP 端子の保護カバー、電池パック接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- 海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- 本機は、水中での使用はできません。
- 濡れている状態で充電しないでください。
- マイク、スピーカー部に尖ったものを差し込まないでください。
- 水滴が付着した場合は放置せず水滴を拭き取ってください。
- 雨の中や水滴が付いたままでの電池パックの取り付け / 取り外しや、MIC/SP 端子カバーの着脱は行わないでください。
- 防水性能の記載がある付属品・オプションを除いては、防水性能を有しておりません。
- 熱湯、温風（ドライヤーなど）を無線機にあてないでください。
- 極端な温度の変化でのご利用は避けてください。結露のため内部が腐食し故障の原因になりますのでご注意ください。
- ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

製品本体の防水性能を維持するためには、異常の有無に関わらず保証期間経過後、1 年に一度のメンテナンスをお勧めします（有償にて承ります）。
過失等、故障内容によっては、保証期間内においても有償修理の対象となる場合があります。

※ 1：粉塵が内部に侵入しない。
※ 2：水深 1m の水没に 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

アンテナの取り付け

アンテナコネクターに近い太い部分を持ち、 時計まわりにしっかりと止まるまでまわします。

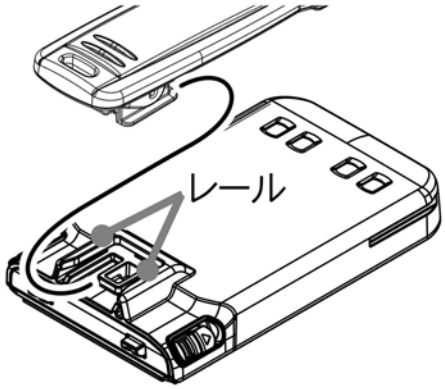


注意

- ○ アンテナの取り付け / 取り外し時には、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナ内部で断線することがあります。
- ○ アンテナを外した状態で送信しないでください。送信回路が破損することがあります。

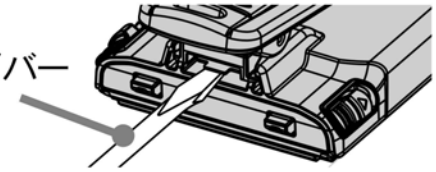
ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップをレールにあわせカチッと音がするまで、確実にスライドします。

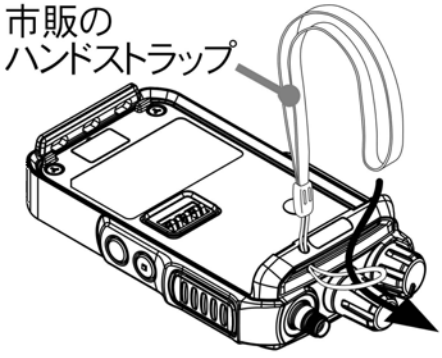


注意

ベルトクリップを外すときは、 マイナスドライバー等でロックレバーを押し上げながらスライドして外します。 指を使うと爪をはがしてケガの原因になることがあります。

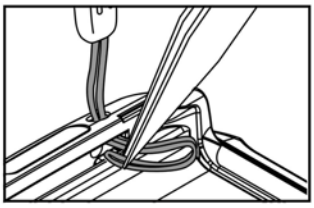


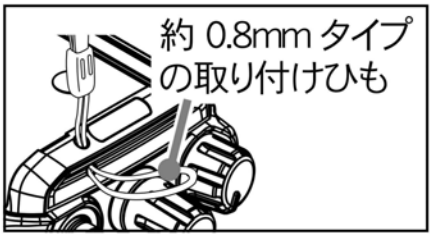
ハンドストラップの取り付け



注意

- ○ ハンドストラップの取り付けひもを取り付け穴に通しにくい場合は、ピンセット等で取り付けてください。その際に、ピンセットの先端で指を刺したり、トランシーバーのケースにキズを付けたりしないよう、十分注意して取り付けてください。
- ○ 先端の取り付けひもは約 0.8mm タイプの丈夫なストラップを取り付けてください。また、 粗悪なハンドストラップを取り付けると、ひもが切れて落下し故障やケガの原因になります。





リチウムイオン電池パックについて

リチウムイオン電池パック（以下「電池パック」と表します）は、使い切らずに継ぎ足し充電が可能な電池パックです。運用する時は満充電にしてからご使用ください。なお、満充電の状態で再度充電をすると過充電となり電池の寿命を短くする原因になりますのでご注意ください。

電池パックの使用条件

◎ 周囲温度が－20 ℃ ～ ＋60 ℃の範囲内で使用してください。

電池パックの保存方法

◎ 周囲温度が－20 ℃ ～ ＋35 ℃の、腐食ガスのない湿度の低い乾燥した場所で保存してください。

◎ 高温の場所で保存すると、劣化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。

◎ 長期間放置 / 保管するときは、次のことを守ってください。

- トランシーバーから電池パックを外す。
- 満充電または完全に使い切った状態にしない。
- 満充電にした状態からディスプレイに （電池残量が約 50%）が表示されるまで使用してから保管する。
- 長期間放置 / 保管後は電池容量が低下していることがあるので、必ず充電してから使用する。
- 過放電を防止するために、半年に一回、補充電（50%程度）をする。

電池パックの特性について

◎ 過充電 / 過放電などの無理な条件が重なると寿命が短くなります。

◎ 電池パックは消耗品です。充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。

◎ 満充電にしても持続時間が短くなってきたときは電池パックの寿命ですので、早めに新しい電池パックをお買い求めください。

電池パックのお手入れ

◎ 側面のプラス端子とマイナス端子及び背面の充電端子を定期的に綿棒等で拭いてください。

◎ ケースが汚れた場合には、シンナーやベンジンなどを使わず、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

使用済みの取り扱い

◎ 前面のプラス端子とマイナス端子及び背面の充電端子をテープ等で絶縁してください。
◎ 電池パックを分解しないでください。
◎ 電池パックはリサイクルできます。
電池パックが不要になった場合は廃棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。

Li-ion
充電式

電池パックの持続時間

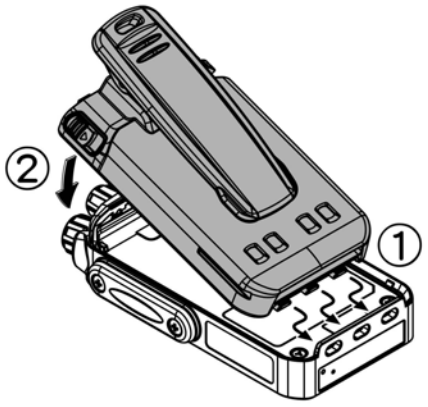
電池持続時間は常温 / 常湿において「送信出力 5W 時、送信 5：受信 5：待ち受け 90」の測定条件になります。周囲の温度により使用できる時間は異なります（極端な高温または低温の場所は使用時間が短くなります）。

電池パック	スーパーセーブ機能 OFF 時	スーパーセーブ機能 ON 時
FNB-V145LI（構成品）	約 13 時間	約 16 時間
FNB-V144LI（オプション）	約 8 時間	約 9.5 時間

電池パックの取り付け / 取り外し

電池パックを取り付ける

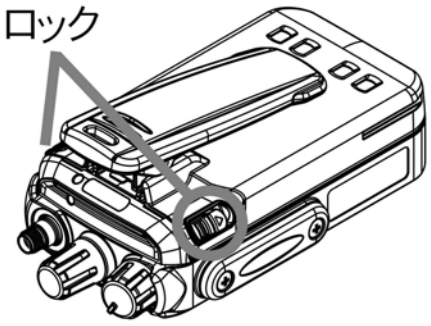
① 本機の背面下部にある凹み部分に、電池パックの突起部分を差し込みます。
② 電池パックの上面にある左右のロックを「カチッ」と音がするまで押しこみます。



注意
電池パックが確実に取り付けられていないと、落下事故や故障の原因になります。

電池パックを取り外す

電池パックの上部左右にあるロックを刻印の矢印方向▼に下げながら、電池パックを外します。



注意
ロックを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。

お使いになる前に

電池パックの充電方法

付属の卓上充電器セットで電池パックを充電します（充電時間下表参照）。

電池パックの充電時間		
LED インジケーター	FNB-V145LI（構成品）	FNB-V144LI（オプション）
90% 充電（緑色点滅）	約 150 分	約 90 分
充電完了（緑点点灯）	約 180 分	約 120 分

補足 電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

お使いになるときのご注意

◎ 専用の AC アダプタ以外の電源は絶対に使用しないでください。
◎ 卓上充電器セットは充電機能のみで、外部電源としての機能はありません。
◎ 充電は、周囲の温度が“+5℃～ +35℃”の場所で行ってください。
◎ 規定の充電時間以上経っても充電が完了しない場合は、すぐに充電を終了してください。電池パックの寿命です。新しい電池パックに交換してください。
◎ 充電中にチャージャースタンドや AC アダプタが発熱する場合がありますが故障ではありません。
◎ 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがあります。できるだけ離してください。

充電器（チャージャースタンド）の LED インジケーター

赤色点灯	急速充電中
赤色点滅	充電エラー（電池パックの誤挿入、不良電池パック、過充電など）
緑色点灯	充電完了
緑色点滅	90%充電（もう少しで充電が完了します）
緑色点滅（1 回）	CD-70 に PA-55A から電源が供給されたとき。
橙色点滅	予備充電（以下の原因が考えられます） 1. 電池パックの電圧が低下している場合（新品または空の電池パックの使用時など） 予備充電が終わると急速充電モードに移行します。 数分後に赤色点滅に切り替わる場合には、電池パックの抜き差しを行って充電動作のリセットを行ってください。 （数回のリセット操作を行っても改善しない場合には、電池パックの交換を行ってください。） 2. 電池パックが充電温度範囲外である場合（低温、発熱、など） 上記の問題が解決されると、急速充電モードに移行します。

使用方法

1. **CD-70 の背面にあるジャックに AC アダプタ“PA-55A”のコネクタを差し込み、電源プラグを“AC 100V”のコンセントに差し込みます。**

補足 電源プラグをコンセントに差し込むと、LED インジケーターが緑色に 1 回点滅します。

2. **電池パックを装着したトランシーバーの電源を切り、トランシーバー（または電池パック単体）を CD-70 の充電口に差し込みます。**

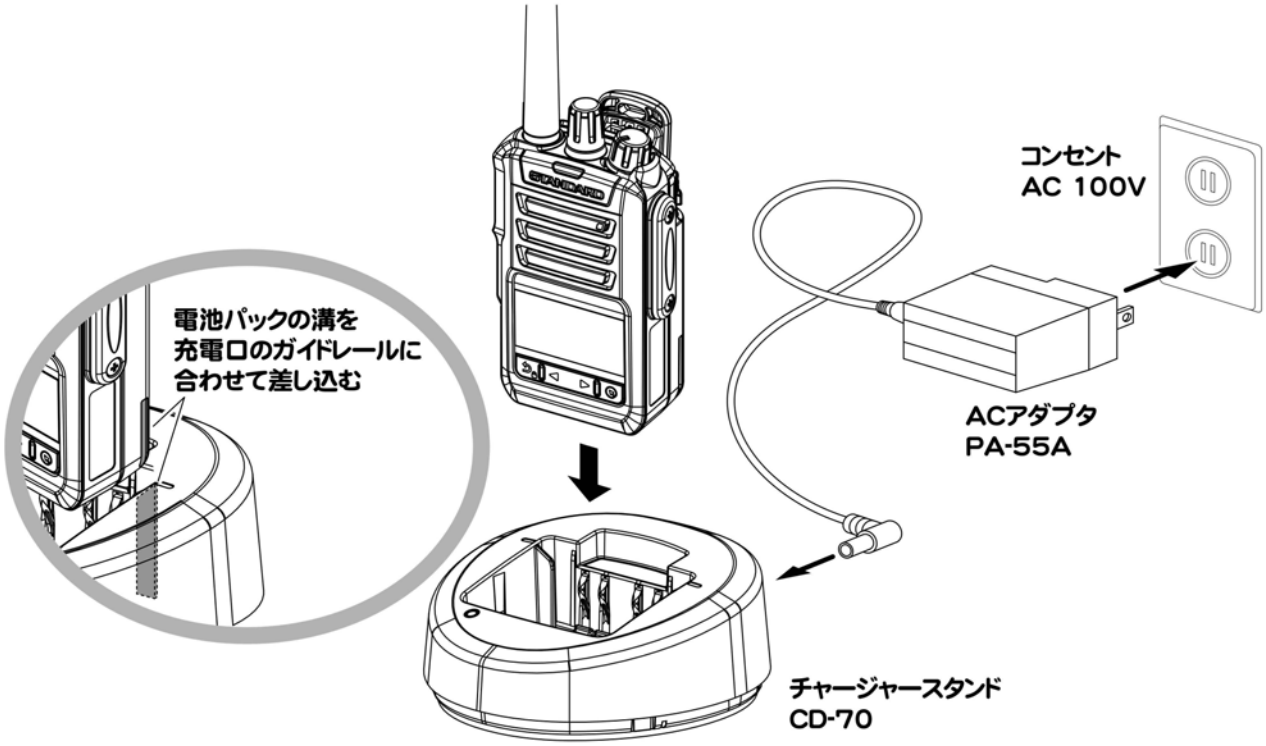
補足 電池パックの溝を充電口のガイドレールに合わせて差し込みます。

注意 電池パックを単体で充電するときは、電池パックの電極が側面に露出しますので、金属片などが触れてショートすることが無いよう十分にご注意ください。

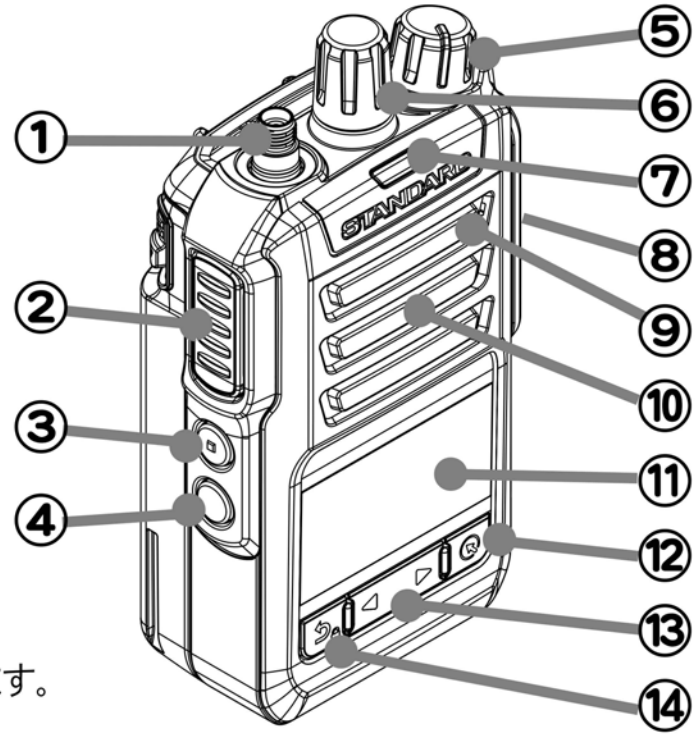
3. **トランシーバー（または電池パック単体）が正しく差し込まれると LED インジケーターが赤色に点灯し充電を開始します。**

4. **90%充電になると LED インジケーターが緑色に点滅し、充電が完了すると緑色に点灯します（充電時間は電池パックにより異なります）。**

注意 充電完了後は速やかに電池パックを CD-70 から取り外してください。そのまま長時間充電を続けると、電池パックを劣化させる可能性があります。



各部の名称と機能



① アンテナ端子
付属のアンテナを接続します。

② PTT スイッチ（PTT）
押している間は通話、放すと待ち受けの状態になります。

③ プログラム 1 キー（◎）
希望の機能を割り付けることができます。

補足 初期値は、短押しで受信音声の録音機能の開始 / 停止（p.50 参照）、長押しの割り付けはありません。

④ プログラム 2 キー（◯）
希望の機能を割り付けることができます。

補足 初期値は、短押しでスキャン機能の開始 / 停止（p.56 参照）、長押しでバックライト機能が動作します（p.59 参照）。

⑤ 電源スイッチ / 音量調節ツマミ（ ）
右へまわすと電源が入り、更にまわすと音量の調節になります。
カチッと音がするまで左へまわし切ると電源が切れます。

⑥ ロータリースイッチ（ ）
チャンネルを選択するときにまわします。

⑦ LED インジケーター
受信中は通信方式により“緑色”“水色”“青色”または“白色”に点滅します。
送信中は“赤色”または“青色”に点灯します。
バッテリー消耗時は、“赤色”で点滅します。

⑧ MIC/SP 端子
MIC/SP 端子カバーを外して、スピーカーマイク等のオプションを接続します。

⑨ **マイク**

⑩ **スピーカー**

⑪ **ディスプレイ**

アイコン	アイコン説明	ページ
	アンテナ (電界強度表示 / 送信出力表示) 受信時 : 受信している電波の強さに応じて4段階で表示します。 送信時 : 送信出力別に 5W 、 2.5W 、 1W が点灯します。	22 23 67
秘	秘話 : 秘話機能が動作中に点灯します。	36
	メッセージ : メッセージ送信中 / 受信中に点滅します。	44
VOX	VOX(ボックス) : VOX 機能が動作中に点灯します。 セミ VOX オペレーション時は が点灯します。	54 55
REC	録音メモ : 音声メモ機能が録音待機中、及び録音中に点灯します。	50
	キーロック : キーロック機能が動作中に点灯します。	24
	スキャン : スキャンチャンネルが登録 / 動作中に点灯します。 スキャン動作中に受信したチャンネルで点滅します。	56
	電池パック残量 : 電池パックの残量を 5 段階で表示します。 → → → → (点滅) とLED インジケーター (赤色) が点滅し警告音が「ピピッ」と鳴った時は、直ちに充電を行ってください。	64

⑫ **選択 / 機能キー ( )**

短く押すと簡易リスト (p.26 参照) を表示します。
押しながら電源を入れると拡張モードに移行します (p.28, 30, 33 参照)。

⑬ **左右選択キー (◀ ▶)**

簡易リストや拡張機能等で、左右選択キーとして動作します。
設定項目で数字が3桁以上の場合、"桁" 選択キーとして動作します。

⑭ **戻るキー ( )**

簡易リストや拡張機能等で、一つ上の階層に戻します。設定変更中に押すと、変更を確定しないで変更前の表示に戻ります。
チャンネル表示画面で 1 秒以上押すとキーロックになり、再度約 1 秒以上押すと解除されます (p.24 参照)。

デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R 3T	351MHz	82	陸上及び日本周辺海域
登録局（上空利用）	3S 3U		15	陸上及び日本周辺海域並びにそれらの上空

補足 本機は種別コード「3R 3T」の“登録局”として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル（ARIB 種別コード：3R 3T）

チャンネル構成

“- CH01 -” ～ “- CH82 -” の 82 チャンネルが利用可能です。

コールチャンネル

“- CALL -” は「コールチャンネル」に設定されています。

補足
- ○ コールチャンネルでは、ユーザーコードは自動的に“000”に設定され、秘話は自動的に解除されますので、ARIB 規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。
- ○ **コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。**
- ○ コールチャンネルでは、ユーザーコードおよび、秘話の設定はできません。

受信専用上空用チャンネルモニター（p.70 参照）

上空用チャンネル（1～15チャンネル）をモニターすることができます。

通信方式

本機では、下記の二通りの通信方式で運用することができます。

補足 工場出荷時は UC（ユーザーコード）通信に設定されていますので、通信相手と同じ通信方式に設定してからご使用ください。

UC（ユーザーコード）通信（p.34 参照）

同じチャンネルで、同じ UC（ユーザーコード）を設定している者同士が通話できる通信方式です。

個別通信（p.38 参照）

同じチャンネルで、同じ UC（ユーザーコード）を設定している者同士の中で、特定の相手やグループだけを呼び出して通話できる通信方式です。

通信時に動作する機能に関して

キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。
送信禁止時はディスプレイに“Wait”が表示され、「ピピッ...」と警告音を発し送信することができなくなります。受信を示すLEDインジケーターが消えてから再度送信を開始してください。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、送信ごとにキャリアセンス機能が動作します。

補足

○ “Wait”表示が出た後にPTTスイッチをもう一度押した場合、受信電波がなくなり次第ビープ音でお知らせする CH 空き通知機能が搭載されています（p.65 参照）。

○ 大規模なイベントではデジタル簡易無線の使用頻度が高く、チャンネルが大変混み合っている場合があります。本機には、こうした状況をできるかぎり緩和して、速やかに通信を行うことができる便利な機能が搭載されています。

- スキャン PTT による自動チャンネル選択機能（p.58 参照）

LED インジケーターによる通話状態の表示

本機は、動作状態を視覚的にわかりやすくお使いいただくために、三原色の LED を使用し、動作状態を以下のように示します。

LED の色・状態	通信（動作）状況
緑色・点滅	UC 通信受信時、他局通信時
赤色・点滅	電池パック消耗時
赤色・点灯	UC 通信送信時、個別通信送信時
青色・点滅	秘話 UC 通信受信時、秘話個別通信受信時
青色・点灯	秘話 UC 通信送信時、秘話個別通信送信時
水色・点滅	個別通信受信時
水色・点灯	通話応答待ちの時（および不在着信時）
白色・点滅	緊急アラーム動作時及び緊急信号着信時

通話中の連続送信停止予告音（「ピピピ」音）

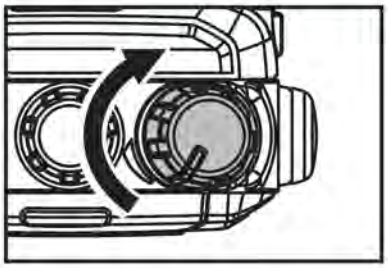
本機の連続送信時間は“5分”で、約4分 50 秒で「ピピピ」と予告音が鳴ります。
送信中に「ピピピ」というビープ音が鳴った場合、速やかに通話を終了してください。
送信を継続すると約 10 秒後に自動的に送信が止まり、通話が中断されます。
なお、自動的に送信が中断された場合、その後1分間は送信することができません。

操作のしかた

通話のしかた（UC通信機能）基礎編

1. 電源を入れます。

電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。



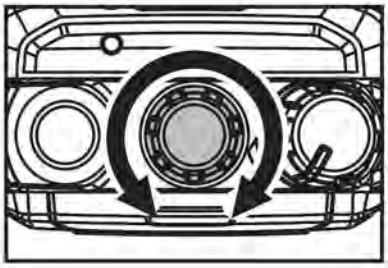
補足 ディスプレイに起動画面が約1秒間表示され「ピポッ」とビープ音が鳴り、ディスプレイに現在のチャンネルが表示されます。

2. 音量を調節します。

音量調節ツマミを 10 ～ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミで調節します。

3. ロータリースイッチをまわして、チャンネルをあわせます。

右へまわすとアップ方向に切り替わります。
左へまわすとダウン方向に切り替わります。



陸上波チャンネル

-CH01- ― -CH02- … -CALL- … -CH81- ― -CH82-
↪ 上空-15 ― 上空-14 ― … ― 上空-2 ― 上空-1 ↩

上空波チャンネル（モニターのみ：p.70 参照）

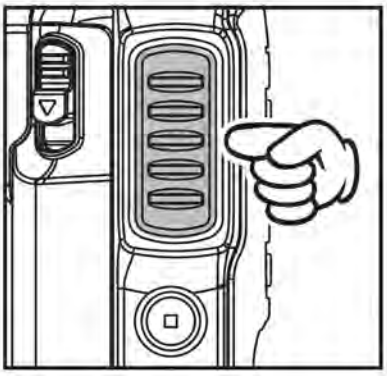
補足 - CH01 - にあわせた時、「ポピピ」というビープ音が鳴りますので、トランシーバーを腰につけていた状態でも - CH01 - を確認することができます。

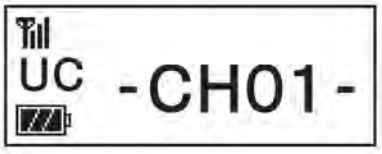
4. 送信（通話）します。

PTT スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

送信中、LED インジケーターが赤色または青色に点灯し、ディスプレイに送信出力のアイコンメーター“ ”が表示します。

近距離で交信する場合は、セットモード“F08 送信出力の設定”を参照し、送信出力を“MID”または“LOW”に切り替えることもできます（p.67 参照）。





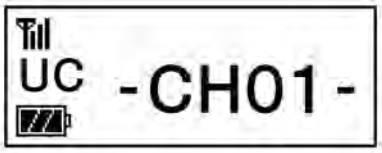
補足
- ○ 送信開始直前には、混信を防ぐためキャリアセンス機能が自動的に動作します（p.21 参照）。
- ○ マイクと口元の間隔は、5cm 位が適当で、普通の声で話します。
  マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声が割れたり、歪むことがあります。

注意
連続送信時間は 5 分以内と電波法で定められています。
本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後に「ピピピ」と警告音が鳴ります。5 分が経過する前に自動で送信が止まり、待ち受けの状態に戻ります。その後 1 分間は送信禁止状態になります。
警告音が鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

5. 相手の音声を受信します。

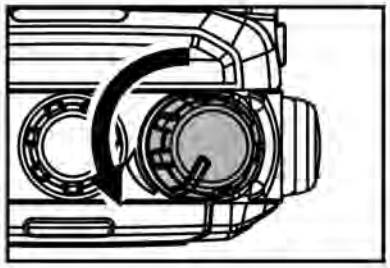
PTT(通話) スイッチを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足
信号を受信すると、LED インジケーターが点滅し、電波の強さに応じて、ディスプレイに電界強度のアイコンメーター " " が表示します (最大 4 本)。



6. 電源を切ります。

電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。



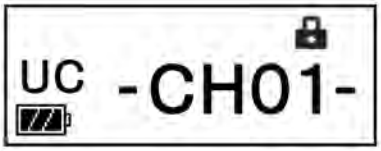
補足
一週間以上使用しない場合は、電池パックが消耗しないように、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。

キーロック機能 基礎編

誤って各キーを押したりロータリースイッチをまわしても、設定が変わらないようにする機能です。

[5]を長押しします。

ディスプレイに“🔒”が点灯し、キーロック機能が動作します。



補足
- ○ キーロックが動作中に各キーを押すと、ビープ音が鳴ると同時に“- LOCK -”が表示され、ロック中であることを知らせます。
- ○ 初期値はKEY+ロータリーに設定されています（下記参照）。

キーロック機能を解除する：

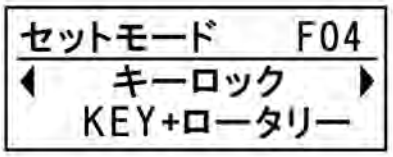
[5]を長押しします。

キーロック機能が解除され、ディスプレイの“🔒”表示が消えます。

キーロックの条件を変更

拡張機能のセットモード“F04 キーロック”で、キーロック機能を動作させたときのロック条件を設定することができます（p.30 参照）。

1. [MONI] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“セットモード”選択 ➡ [MONI]
3. [◀][▶]（ ）“F04 キーロック”選択 ➡ [MONI]
4. [◀][▶]（ ）希望のロックに選択 ➡ [MONI]



KEY+ロータリー（初期値）	、[5]（短押し）、[◀]、[▶]、[MONI]、[A]、[B] をロックします。
PTT	[PTT] をロックします。
KEY	[5]（短押し）、[◀]、[▶]、[MONI]、[A]、[B] をロックします。
ロータリー	をロックします。
全て	、[5]（短押し）、[◀]、[▶]、[MONI]、[A]、[B]、[PTT] をロックします。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

各機能の設定

各機能を使用する場合は、簡易リストや拡張機能（コールモード、セットモード）から機能を選択します。

◎簡易リスト（26 ページ参照）
比較的使用頻度が高い機能をリストから選択し、簡単に設定することができます。

◎コールモード（28 ページ参照）
UC 通信、個別通信や秘話等の詳細設定を行うことができる拡張機能です。

◎セットモード（30 ページ参照）
一度設定すると変更する機会や使用頻度が少ない拡張機能です。

本機の機能説明は各ページを参照してください。

機能	ページ
UC 通信機能 応用編	34
秘話機能 応用編	36
個別通信機能 応用編	38
呼び出しのベル音回数設定と自局情報の確認	41
個別通信に便利な機能	42
緊急アラーム機能	45
便利な機能	50
録音メモ機能	50
リピート再生機能	52
イコライザー機能	53
ノイズキャンセル機能	54
インテリジェントオーディオライト機能	54
セミ VOX オペレーション	54
VOX 機能	55
スキャン機能	56
スキャン PTT	58
スキャン RX	58
セカンダリ PTT	59
バックライト	59
音声案内	59
ワンタッチで音量を下げる機能	60

機能	ページ
必要に応じて使う機能	61
ビープ音量調整	61
ディスプレイのコントラスト調整	61
マイクレベルの調整	62
送信ビープと受信ビープ	63
信号が極端に弱くなると知らせる機能	64
電池パックが消耗するとアラームで知らせる機能	64
チャンネルが空いたとき通知する機能	65
オプションの電源供給	65
イヤホン / スピーカーマイクの特性補正	66
外部マイクロホンの取り付け	66
送信出力の設定	67
適切なマイク感度に自動調整する機能	67
PTT ホールドタイプに変更する	68
プログラムキーの設定を変更する	69
上空用チャンネルをモニターする	70
電池パックの消耗を防ぐ	70
2 時間オフタイマー	71
拡張機能の設定を初期値に戻す	71

簡易リスト

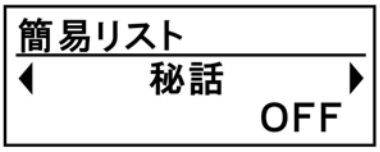
簡易リスト一覧

項 目		設定値（初期値太字）	機能	ページ
UC		**000** ～ 511	ユーザーコードの設定	35
秘話		**OFF**/ON	秘話機能の設定	37
秘話コード		**00001** ～ 32767	秘話コードの設定	37
リピート再生		—	自動で録音されている相手局の音声を再生	52
録音メモ		—	録音された音声の再生 / 消去	51
スキャン CH		CH01 ～ CH82/ALL CH	スキャンチャンネルの設定	56
RX イコライザー		**OFF**/ 低域強調 / 高域強調	受信音の音質の設定	53
TX イコライザー		**OFF**/ 低域強調 / 高域強調	送信音の音質の設定	53
ノイズキャンセル		OFF/**ON**	ノイズキャンセル機能の設定	54
インテリオーディオライト		**OFF**/ON	インテリジェントオーディオライト機能の設定	54
VOX		**OFF**/ON	VOX機能の設定	55
VOX 感度		レベル 00 ～ **08** ～ 15	VOX感度の設定	55
個別通信時の追加機能	アンサーバック	—	待ち受け画面に表示されている相手局と、交信できる状態かを確認する機能	42
	着信履歴	—	着信した信号の発信元を、新しい順に表示（最大 10 件）	43
	発信履歴	—	発信した信号の発信先を、新しい順に表示（最大 10 件）	43
	メッセージ送信	—	あらかじめ登録されたメッセージ（最大 10 件）の送信機能	43
	メッセージ確認	—	受信したメッセージの表示（最大 10 件）	43
自局情報		個別 ID/ グループ ID	個別 ID、グループ ID の表示	41

簡易リストの設定

1. **待ち受け画面で [OK] を短押しすると、簡易リストを表示します。**

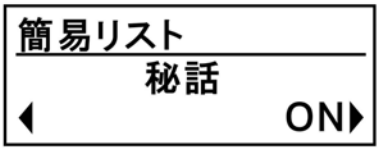
2. **[◀] [▶] で希望の項目を選択します。**
   でも選択できます。



3. **[OK] を押して確定します。**

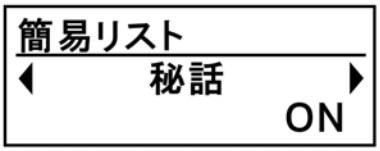
4. **[◀] [▶] で希望の設定値を選択します。**
   でも選択できます。

   数字が 3 桁以上の場合、
   ・[◀] [▶] 桁移動
   ・◎（アップ）、◯（ダウン）が可能



   補足 [戻る] を押すと一つ前の画面に戻ります。

5. **[OK] を押して確定します。**
   他の項目を選択する場合は、手順 4 ～手順 5 を繰り返し操作します。



6. **[戻る] を押してチャンネル表示に戻します。**

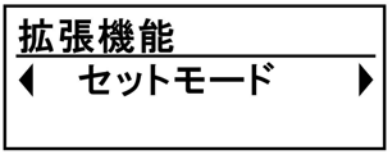
コールモード（拡張機能）

コールモード一覧

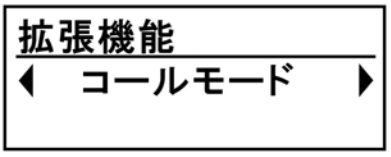
項目	設定値（初期値**太字**）	機能	ページ
C01 通信方式	**UC 通信** / 個別通信	通信方式の選択	38
C02 UC モード	**CH 共通** /CH 毎	UC を全てのチャンネルの適用チャンネル設定	35
C03 UC ベル	**0**/1/2/3 回	同一 UC 呼び出しビープ音の回数設定	-
C04 自局 ID	**001** ～ 200	自局 ID の設定	38
C05 グループ ID	**01** ～ 30	グループ ID の設定	38
C06 個別ベル	0/**1**/2/3/4/5 回	個別呼び出し時のビープ音の回数設定	41
C07 グループベル	**0**/1/2/3 回	グループ / 一斉呼び出し時のビープ音の回数設定	41
C08 緊急宛先	**一斉** / 個別	緊急信号を送信する際の宛先設定	48
C09 緊急個別 ID	001 ～ **002** ～ 200	緊急を知らせたい相手局の ID 設定	49
C10 緊急応答宛先	**一斉応答** / 緊急応答 / 個別応答	個別通信時の緊急着信時応答宛先 ID の選択	49
C11 秘話モード	**CH 共通** /CH 毎	秘話コードの適用チャンネル設定	37

コールモードの設定

1. **一度電源を切り、[◉] を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら [◉] を放します。**



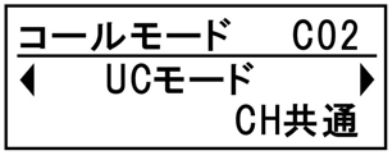
2. **[◀] [▶] で“コールモード”を選択します。**
   でも選択できます。



3. **[◉] を押して確定します。**

4. **[◀] [▶] で希望の項目を選択します。**
   でも選択できます。

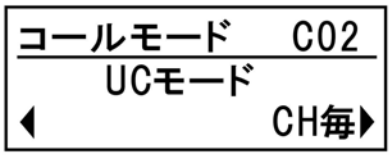
   例）右図のディスプレイ表示は“C02 UC モード”の設定で説明します。



5. **[◉] を押して確定します。**

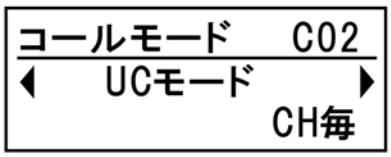
6. **[◀] [▶] で希望の設定値を選択します。**
   でも選択できます。

   C04 自局ＩＤ、C09 緊急個別ＩＤのＩＤ設定を行うときは、数字の桁移動、アップ、ダウン可能
   ・[◀] [▶] 桁移動
   ・◎（アップ）、◯（ダウン）が可能



7. **[◉] を押して確定します。**

   次の項目を選択する場合は、手順 4 ～手順 7 を繰り返し操作します。



8. **電源を切るとコールモードの設定は終了します。**

セットモード（拡張機能）

セットモード一覧

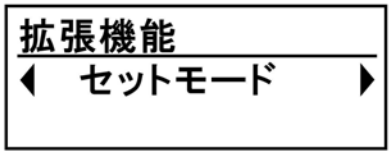
項目	設定値（初期値**太字**）	機能	ページ
F01 ビープレベル	レベル 00 ～ **08** ～ 15	操作音（ビープ音）の音量設定	61
F02 外部マイク	-18/-12/-6/-3/**0**/+3/+6/+10	外部マイクの感度設定	62
F03 内部マイク	-18/-12/-6/-3/**0**/+3/+6/+10	本体内部マイクの感度設定	62
F04 キーロック	**KEY +ロータリー** / PTT/KEY/ ロータリー / 全て	ロック範囲の設定	24
F05 緊急モード	**サイレント +ID 送信** / ID 送信 / アラーム /OFF/ アラーム +ID 送信	緊急モードの動作設定	48
F06 TX ビープ	**OFF**/ON	送信開始時のビープ音設定	63
F07 RX ビープ	**OFF**/ON	相手局の送信終了音の設定	63
F08 送信出力	**High**/Mid/Low/受信専用	送信出力の設定	67
F09 弱電界アラーム	**OFF**/ON	受信信号が極端に弱い場合に鳴るアラームの設定	64
F10 不在着信ベル	**OFF**/ 5秒毎×2/ 2秒毎 / 1分毎 / 連続	個別着信時に応答しなかった場合に鳴るベルの設定	-
F11 アンサーバック	**OFF**/ON	相手局に電波が届いているかを確認する機能の設定	42
F12 電池アラーム	OFF/**ON**	電池残量アイコン点滅と同時に鳴る警告音の ON/OFF	64
F13 ワンタッチボリューム	**ミュート** /-30 %/-60 %	[プログラム] キーに機能を割り付けたときの、音量減衰量の設定	60
F14 CH 空き通知	**OFF**/ON	チャンネルの空き通知の設定	65
F15 ACC電源	**OFF**/ON	オプションのユニットへの電源供給の設定	65

項目	設定値（初期値太字）	機能	ページ
F16 コントラスト	レベル 00 ～ **08** ～ 15	ディスプレイのコントラスト調整	61
F17 セミ VOX オペレーション	**OFF**/ON	PTT 短押しで送信開始、音声入力が無くなると送信終了する機能の設定	54
F18 VOX TX 保持時間	**0**/0.2/0.5/1.0 秒	送信状態から受信状態になるまでの時間設定	55
F19 TX AGC	**OFF**/ON	適切なマイク感度に自動調整する機能の設定	67
F20 外部アクセサリタイプ	**OFF**/ イヤホン / スピーカマイク	イヤホン / スピーカーマイクの特性補正	66
F21 PTT ホールド	**OFF**/ON	PTT ホールド動作の設定	68
F22 上空 CH	**OFF**/ モニタ	上空用チャンネルモニターの設定	70
F23 スキャンタイプ	**プログラム** / デュアルレシーブ	スキャン機能の設定	57
F24 スキャン PTT	**通話 CH**/ 最終通話 CH/AUTO	スキャン機能の動作中の PTT 動作設定	58
F25 スキャン RX	OFF/**ON**	スキャン機能の着信後のスキャン再開設定	58
F26 スーパーセーブ	**OFF**/ON	電池パックの持ち時間セーブ機能の設定	70
F27 プログラム 1 キー（短押し）	**録音** / スキャン / 音声案内 / バックライト / ワンタッチボリューム セカンダリ PTT/OFF	プログラム 1 キー短押しの機能割付け設定	69
F28 プログラム 1 キー（長押し）	録音 / スキャン / 音声案内 / バックライト / ワンタッチボリューム / **OFF**	プログラム 1 キー長押しの機能割付け設定	69
F29 プログラム 2 キー（短押し）	録音 / **スキャン** / 音声案内 / バックライト / ワンタッチボリューム /OFF	プログラム 2 キー短押しの機能割付け設定	69
F30 プログラム 2 キー（長押し）	録音 / スキャン / 音声案内 / **バックライト** / ワンタッチボリューム / 緊急 / OFF	プログラム 2 キー長押しの機能割付け設定	69
F31 自動電源 OFF	**OFF** / ON	電源切り忘れ防止機能の設定	71
F32 設定リセット	実行 / キャンセル	拡張機能の各設定の初期化	71

操作のしかた（拡張機能）

セットモードの設定

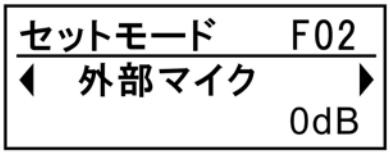
1. 一度電源を切り、 を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら を放します。



2. “セットモード” が表示されているか確認します。
3. を押して確定します。
4. で希望の項目を選択します。

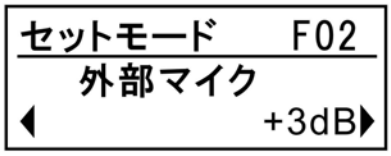
   でも選択できます。

   例）右図のディスプレイ表示は “F02 外部マイク” の設定で説明します。



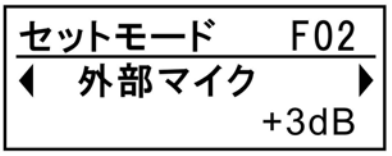
5. を押して確定します。
6. で希望の設定値を選択します。

   でも選択できます。



7. を押して確定します。

   次の項目を選択する場合は、手順 4 ～手順 7 を繰り返し操作します。



8. 電源を切るとセットモードの設定は終了します。

管理番号表示（拡張機能）

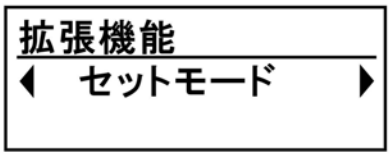
管理番号表示一覧

販売店および営業所サービス確認用画面で、CSMコードとシリアル番号を表示します。

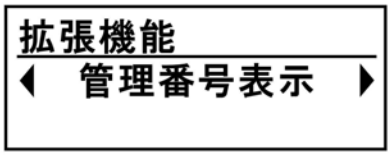
項目	初期値	設定値	機能
S01 CSMコード	—	—	販売店および営業所サービス確認用
S02 シリアル番号	—	—	販売店および営業所サービス確認用

管理番号表示の設定

1. **一度電源を切り、[⊙]を押しながら電源を入れ、拡張機能の選択画面が表示されたら[⊙]を放します。**



2. **[◀][▶]で“管理番号表示”を選択します。**
   でも選択できます。



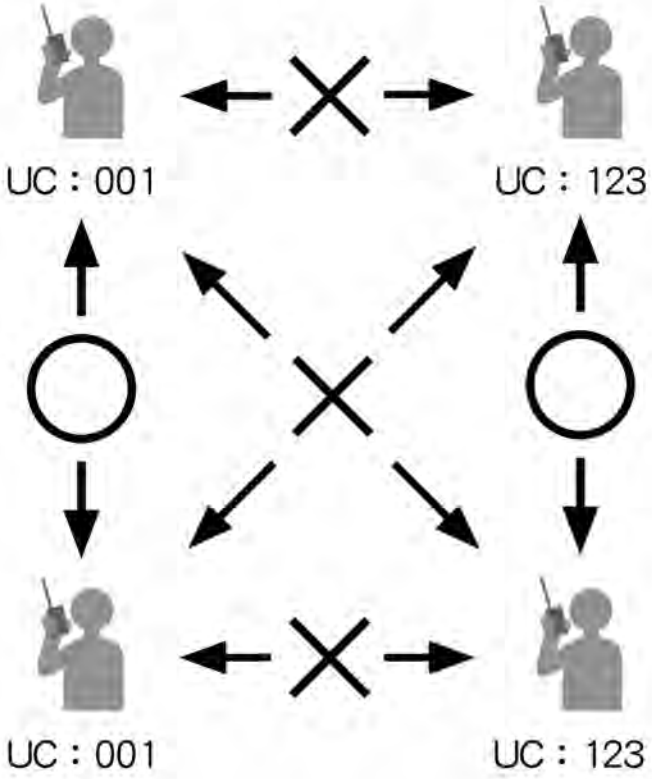
3. **[⊙]を押して確定します。**
4. **[◀][▶]で希望の項目を選択します。**
   でも選択できます。
5. **電源を切ると管理番号表示は終了します。**

ユーザー同士で交信したい（UC通信機能）応用編

UC（ユーザーコード）通信とは

同じチャンネルで、同じユーザーコードを設定しているユーザー同士が通話できる方式（UC 通信方式）です。

ユーザーコードは初期値の状態で共通ユーザーコード“000”に設定されています。この状態では他局がユーザーコードを変更していても秘話通信を除く全てのUC 通信を受信することができます。ユーザーコードを“000”以外に変更することで、ユーザーコードが一致した局のみと交信することができます。



補足

- ○ ユーザーコードは、3桁の数字で構成されていて、“000”～“511”の間で決めることができます。
- ○ ユーザーコード“000”は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は“000”を設定している相手としか通信することができません。
- ○ UC 通信方式は、ARIB 規格で規定されており、種別コード 3R の他社製デジタル簡易トランシーバーと通話互換があります。

注意

- ○ チャンネルが“CALL”（CH15）のときは、ユーザーコードの設定はできません。ユーザーコードを設定する場合は、他のチャンネルに切り替えて設定してください。

UC の設定

1. [MENU] を短押しで、簡易リストの UC を表示します。

2. [MENU] を押します。
3. [ダイヤル] で希望の UC を選択します。

設定できるユーザーコードは “000” ～ “511” です。

- [◀][▶] 桁移動
- [ダイヤル] 数字がアップ、[ダイヤル] 数字がダウン
- [C] キャンセル

補足
- ○ 初期値は “000” が設定されています。
- ○ 初期値は、全てのチャンネルで共通のユーザーコードになりますが、コールモード “C02 UC モード” により “CH 毎” に設定すると、チャンネルごとにユーザーコードを設定することができます。

4. [MENU] を押して確定します。
5. [C] を押してチャンネル表示に戻します。

または、[PTT] を押すとチャンネル表示に戻り送信することができます。

通話のしかた

基礎編の “通話のしかた” と同様に行います （p.22 参照）。

盗聴されにくい交信をしたい（秘話機能）応用編

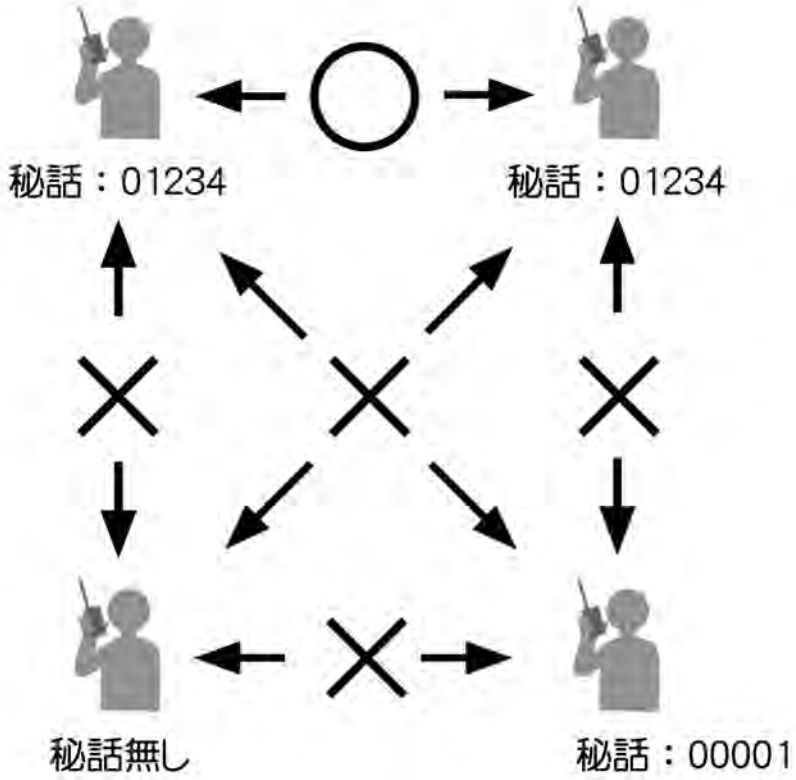
秘話とは

盗聴されるのを防止する機能です。秘話機能はUC通信や個別通信どちらでも使用可能です。秘話機能を利用する際は、秘話コードの設定が必要です。

32,767通りの秘話コードがあり、秘話コードが一致するトランシーバー同士のみ交信することができます。

初期値は、秘話コードが“00001”に設定されていますが、ご使用の際に通話セキュリティーを十分に確保するためには、次ページの“秘話の設定”を参考に再設定することをお勧めします。

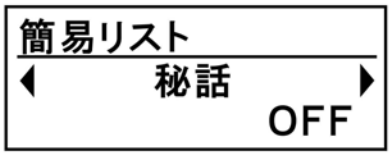
注意 チャンネルが“CALL”（CH15）のときは、秘話機能の設定はできません。秘話機能を設定する場合は、他のチャンネルに切り替えて設定してください。



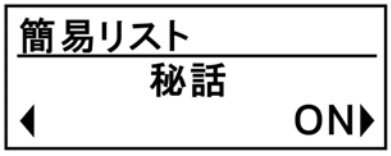
秘話の設定

1. [⊙] を短押しで、簡易リストを表示します。

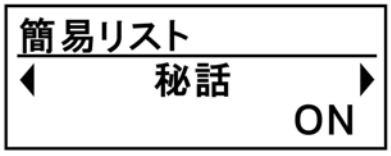
2. [▶] を 1 回押し、“秘話”を選択します。
   [🎤] でも選択できます。



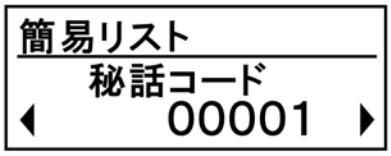
3. [⊙] を押して確定します。
4. [▶] で“ON”に設定します。
   [🎤] でも選択できます。

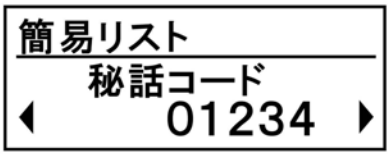


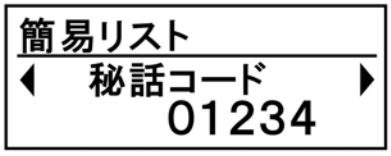
5. [⊙] を押して確定します。



6. [▶] を 1 回押し、“秘話コード”を選択します。
7. [⊙] を押してカーソルが点灯します。
8. [🎤] で希望の秘話コードを選択します。
   秘話コードは“00001”～“32767”です。
   - [◀] [▶] 桁移動
   - [⊙] 数字がアップ、[◯] 数字がダウン
   - [↩] キャンセル







補足
- ○ 初期値は“00001”が設定されています。
- ○ 初期値は、全てのチャンネルで共通の秘話コードになりますが、コールモード **“C11 秘話モード”** により **“CH 毎”** に設定すると、チャンネルごとに秘話コードを設定することができます。

9. [⊙] を押して確定します。
10. [↩] を押してチャンネル表示に戻します。
    または、[PTT] を押すとチャンネル表示に戻り送信することができます。

秘話のアイコンが表示

通話のしかた

基礎編の“通話のしかた”と同様に行います（p.22 参照）。

個別に呼び出したい（個別通信機能）応用編

個別通信とは

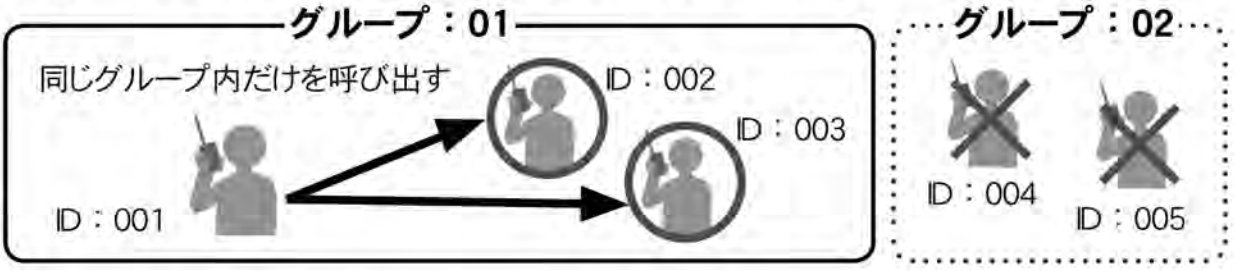
特定の相手局だけを呼び出したり、自局と同じグループの呼び出しやクループに関係なく一斉に呼び出して通話することができます。

個別通信を行う前の準備

◎ コールモード“C01 通信方式”を“個別通信”に設定します（p.28 参照）。
◎ コールモード“C04 自局ID”で“001 ～ 200”から、各トランシーバーに違うIDを設定します（p.28 参照）。
◎ コールモード“C05 グループID”で“01 ～ 30”から、自局グループのIDを設定します（p.28 参照）。
◎ 全員が同じチャンネルに設定します。
◎ 簡易リスト“UC”で全員が同じユーザーコードに設定します（p.26, 35 参照）。
◎ 秘話機能を使用する場合は、簡易リスト“秘話”を“ON”に設定し、“秘話コード”で全員が同じ秘話コードに設定します（p.26, 37 参照）。

特定の相手局だけを呼び出す（個別）

自局と同じグループだけを呼び出す（グループ）



一斉に呼び出す（一斉）

呼び出しを行う

待ち受けの状態で [◉] を長押しすると個別呼び出しの“宛先選択画面”へ移行します。操作手順は、下記の手順 A ～ C を参照してください。

宛先選択画面項目	機能
個別	特定の相手だけを呼び出す
グループ	自局と同じグループだけを呼び出す
一斉	一斉に呼び出す

手順 A）特定の相手だけを呼び出す

相手局の個別 ID を設定して呼び出します。

1. [◉] 長押し（宛先選択）
2. [◀][▶] “個別”を選択 ➡ [◉]
3. [◀][▶] ID の桁を移動（点滅がカーソルの位置）
4. [◎] アップ、[◯] ダウン、または [PTT]
   呼び出したい個別 ID を選択 ➡ [◉]
5. [PTT] 呼び出します
6. さらに他の局を呼び出すには、
   [◀][▶] 短押しで、手順 3 ～ 5 を行います。

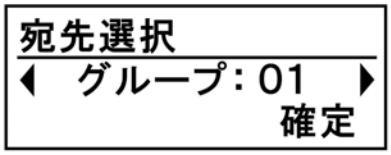
点滅がカーソルの位置

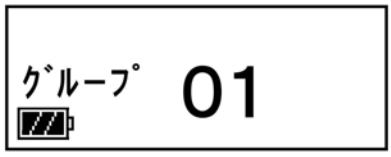
手順 B）自局と同じグループだけを呼び出す

同じグループ内に属する全員を呼び出します。

1. [◉] 長押し（宛先選択）
2. [◀][▶] “グループ”を選択 ➡ [◉]
3. [PTT] 呼び出します

補足 コールモード“C05 グループ”ID で、呼び出したいグループ ID に変更することで、他のグループを呼び出すことができます。

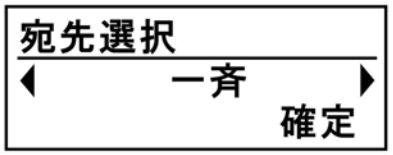




手順 C）一斉に呼び出す

グループに関係なく一斉に呼び出します。

1. [◉] 長押し（宛先選択）
2. [◀][▶] “一斉”を選択 ➡ [◉]
3. [PTT] 呼び出します



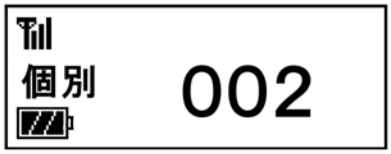
操作のしかた（個別通信機能）

呼び出しを受けたとき

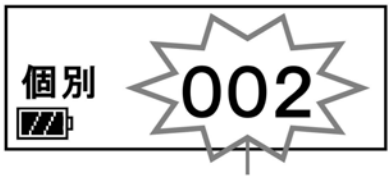
個別通信で呼び出しを受けると、ビープ音（着信ベル）やLEDインジケーターの点滅（不在着信機能）により呼び出しがあったことを知らせます。
個別通信によるLEDインジケーターの表示は、「LEDインジケーターによる通話状態の表示」（p.21参照）を参照してください。

特定の相手から呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出してきた相手局のIDが表示され、スピーカーからビープ音が一回鳴り（C06 個別ベルでベルの回数を変更可能：p.41参照）、受信中はLEDインジケーターが水色に点滅します。



不在着信の場合：
その後、呼び出してきた相手局のIDが点滅表示され、LEDインジケーターが水色に点灯したままになります（不在着信機能）。



相手局のIDが点滅

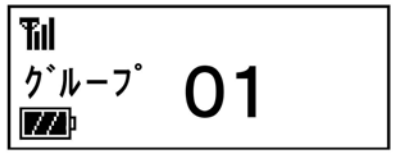
応答する場合：
PTTを押すと相手を呼び出します。

不在着信状態をキャンセルする場合：
任意のキーを短押しします。

補足 スキャン機能動作中で“F 24：スキャンRX”が“ON”の場合は、不在着信機能は動作しません。

グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出されたグループのIDが表示され、受信中はLEDインジケーターが水色に点滅し、通話応答待ち受け時は点灯します。
約5秒間放置すると元の画面に戻ります。



一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“ALL”が表示され、受信中はLEDインジケーターが水色に点滅し、通話応答待ち受け時は点灯します。
約5秒間放置すると元の画面に戻ります。

呼び出しのベル音回数設定と自局情報の確認

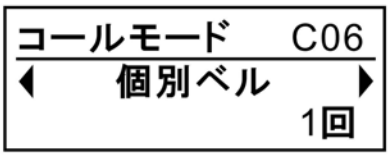
個別呼び出しのベル音回数設定（個別ベル）

個別呼び出しを受けた時に鳴るビープ音（着信ベル）の回数を、変更することができます。

1. [Ⓚ] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“コールモード” 選択 ⇒ [Ⓚ]
3. [◀][▶]（ ）“C06 個別ベル” 選択 ⇒ [Ⓚ]
4. [◀][▶]（ ）希望の回数に選択 ⇒ [Ⓚ]

0/1/2/3/4/5 回（初期値：1 回）
個別呼び出し時のビープ音の回数設定

5. 電源を切り、再度電源を入れる



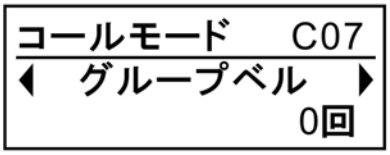
グループ呼び出しのベル音回数設定（グループベル）

グループ呼び出しを受けた時に鳴るビープ音（着信ベル）の回数を、変更することができます。

1. [Ⓚ] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“コールモード” 選択 ⇒ [Ⓚ]
3. [◀][▶]（ ）“C07 グループベル” 選択 ⇒ [Ⓚ]
4. [◀][▶]（ ）希望の回数に選択 ⇒ [Ⓚ]

0/1/2/3/4/5 回（初期値：0 回）
グループ呼び出し時のビープ音の回数設定

5. 電源を切り、再度電源を入れる

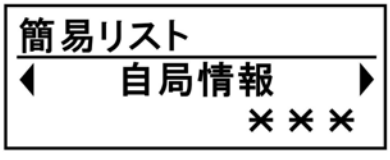


自局情報の確認（自局情報）

トランシーバーに設定している個別 ID、グループ ID を表示して確認することができます。

1. [Ⓚ] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（ ）“自局情報” 選択 ⇒ [Ⓚ]
3. ディスプレイに個別 ID とクループ ID を表示する
4. [↩] 自局情報を表示させる前の画面に戻る
5. [↩] 個別通信画面に戻る

補足 “C01 通信方式” を “個別通信” に設定している場合、トランシーバーの電源を入れた際に、ロゴマークの下に自局 ID が表示されます。



操作のしかた（個別通信機能）

個別通信時に便利な機能

個別通信機能に設定すると、簡易リストに５つの項目が追加されます。

◎アンサーバック・・・待ち受け画面に表示されている局と交信可能か確認する
◎着信履歴・・・・・着信した履歴を確認する
◎発信履歴・・・・・発信した履歴を確認する
◎メッセージ送信・・・あらかじめ登録してあるメッセージを送信する
◎メッセージ確認・・・受信したメッセージを確認する

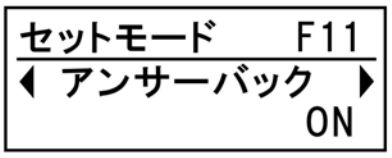
アンサーバック

特定の相手局と交信できる状態かを確認することができます。

アンサーバック機能の準備：

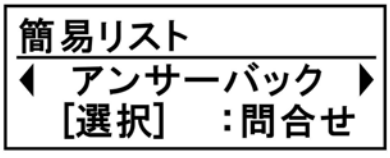
セットモード“**F11 アンサーバック**”を“**ON**”に設定してください。

1. **[M] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）**
2. **[◀][▶]（[M]）“セットモード”選択 ⇒ [M]**
3. **[◀][▶]（[M]）“F11 アンサーバック”選択 ⇒ [M]**
4. **[◀][▶]（[M]）“ON”に選択 ⇒ [M]**
5. **電源を切り、再度電源を入れる**

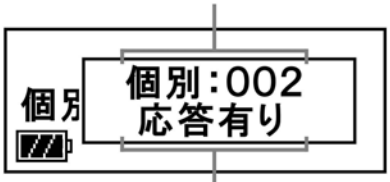


アンサーバックを使用する：

1. **p.39 の“特定の相手だけを呼び出す”を参考に、手順 3、4 で確認したい相手局の個別 ID を設定する**
2. **[M] 短押し（簡易リスト）**
3. **[◀][▶]（[M]）“アンサーバック”選択 ⇒ [M]**
   相手に「問い合わせ」の信号を送出し、その後結果を表示する



相手の個別 ID

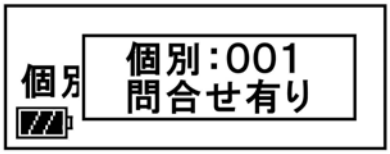


問合せ ⇒ 応答中 ⇒ 応答有り（応答無し）の通信状態が表示される

応答有り	相手局と送信可能な状態です。
応答無し	「相手局の電源が入っていない」「距離が離れすぎている」などの原因で、相手局と交信できない状態です。

4. **[C] 個別通信画面に戻る**

問い合わせを受けると、“**問合わせ有り**”と相手局に表示される



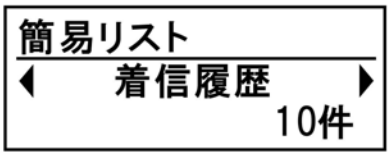
着信履歴

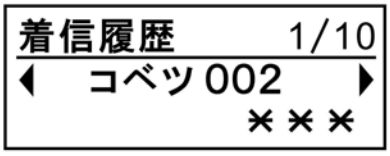
これまでに着信した信号の発信元を、新しい順に最大 10 件まで履歴として残すことができます。

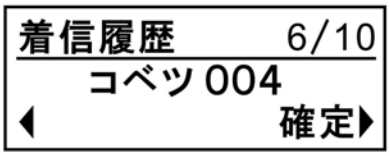
1. [M] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（[ノブ]）“着信履歴”選択 ⇒ [M]
3. [◀][▶]（[ノブ]）着信履歴を選択 ⇒ [M]
4. [◀][▶]（[ノブ]）“確定”/“削除”を選択 ⇒ [M]

確定	表示中の相手局と通話するため、表示中の ID を表示し、個別通信画面に移行します。[PTT] で、着信履歴の ID に応答します。
削除	表示している発信履歴を削除します。 3. [◀][▶]（[ノブ]）で“履歴消去”を選択すると、全ての履歴を消去できます。

5. [戻] 個別通信画面に戻る
   （削除の場合、簡易リスト画面に戻る）







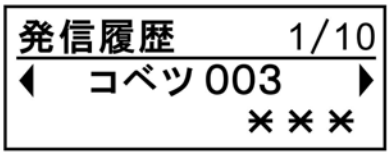
発信履歴

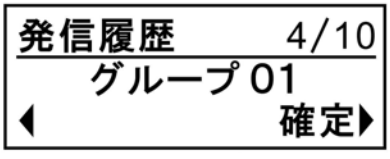
これまでに発信した信号の発信先を、新しい順に最大 10 件まで履歴として残すことができます。

1. [M] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（[ノブ]）“発信履歴”選択 ⇒ [M]
3. [◀][▶]（[ノブ]）発信履歴を選択 ⇒ [M]
4. [◀][▶]（[ノブ]）“確定”/“削除”を選択 ⇒ [M]

確定	表示中の相手局と通話するため、表示中の ID を表示し、個別通信画面に移行します。[PTT] で、発信先履歴の ID に応答します。
削除	表示している発信履歴を削除します。 3. [◀][▶]（[ノブ]）で“履歴消去”を選択すると、全ての履歴を消去できます。

5. [戻] 個別通信画面に戻る
   （削除の場合、簡易リスト画面に戻る）





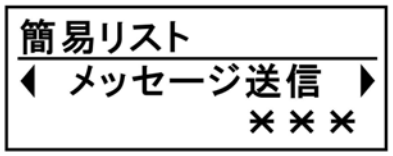
操作のしかた（個別通信機能）

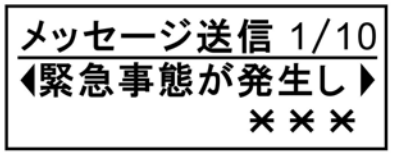
メッセージ送信

メッセージを送信する：

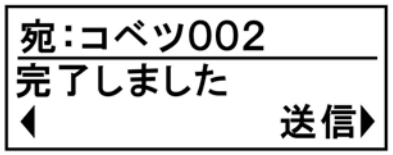
あらかじめ登録されているメッセージ（10 件 ）を送信することができます。
受信中等でメッセージ送信ができない状態では、 一旦メッセージを保存して待ち受け状態になったときに自動でメッセージを送信します。

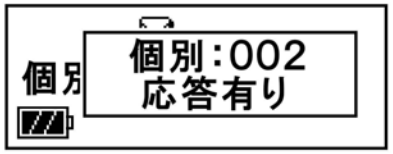
1. **宛先を指定する（p .39 参照）**
2. **短押し（簡易リスト）**
3. **（ ）“メッセージ送信” 選択 ➡**
4. **（ ）メッセージを選択 ➡**





番号	メッセージ一覧	番号	メッセージ一覧
1	緊急事態が発生しました	6	集合してください
2	至急連絡願います	7	開始しました
3	運転中です	8	完了しました
4	出発しました	9	作業中です
5	到着しました	10	待機中です



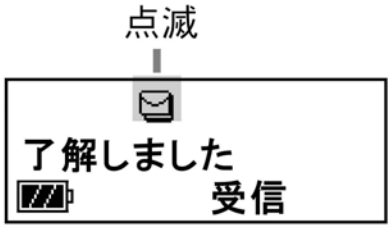


5. **メッセージを送信**
   相手局にメッセージ送信が完了すると、宛先と“応答有り”が表示されます。
   特定の相手だけを呼び出す個別呼び出しでは、電波が届かない、電源が切れている等で相手にメッセージが届かない場合は“応答無し”を表示します。
6. **個別通信画面に戻る**

メッセージを受信する：

メッセージを受信すると、ディスプレイに送り側の個別 ID を表示し、次に“ ”アイコンが点滅して、メッセージを表示します。

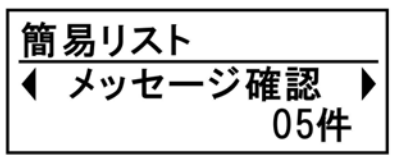
メッセージを確認後、 でメッセージを受信する前の状態に戻ります。



メッセージ確認

これまでに受信したメッセージを、 新しい順に最大 10 件まで表示することができます。

1. **短押し（簡易リスト）**
2. **（ ）“メッセージ確認” 選択 ➡**
3. **（ ）メッセージを選択 ➡**
4. **（メッセージを削除する場合は ）➡ 簡易リスト画面に戻る**



緊急アラーム機能

緊急アラーム機能とは

緊急事態をアラーム音とLEDの表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して一斉に知らせたり、個別IDを設定して特定の局のみに知らせることができる機能です。この機能は主に個別通信用の機能ですが、セットモード“F05 緊急モード”で“アラーム”を選択するとUC通信でも使用可能です(p.48 参照)。
“一斉に知らせる”、“個別に知らせる”“中継して知らせる”の操作手順は45 ～ 47 ページを参照してください。

緊急を“一斉”で知らせる方法

緊急を一斉に知らせる方法の準備：

◎ セットモード“F30 プログラム2キー 長”を“緊急”に設定(p.69 参照)
◎ セットモード“F05 緊急モード”を“サイレント+ID送信”、“アラーム+ID送信”または“ID送信”に設定(p.48 参照)
◎ コールモード“C08 緊急宛先”を“一斉”に設定(p.48 参照)
◎ コールモード“C10 緊急応答宛先”を“一斉応答”に設定(p.49 参照)
◎ 簡易リスト“UC”で同じユーザーコードに設定
◎ 全員が同じチャンネルに設定

緊急信号を送出する：

◯ を長押しします。

全員のトランシーバーに緊急信号を送出し、トランシーバーのキー操作はロックされます。LEDインジケーターが白色に点滅し、ディスプレイに“一斉 緊急”と表示します（“サイレント+ID送信”の場合は表示しません）。
PTT を押すと、緊急信号として通話することができます。

補足 緊急信号、およびその後のPTTによる緊急通話受信中、相手局側は“緊急”と表示されます。

緊急信号を受信する：

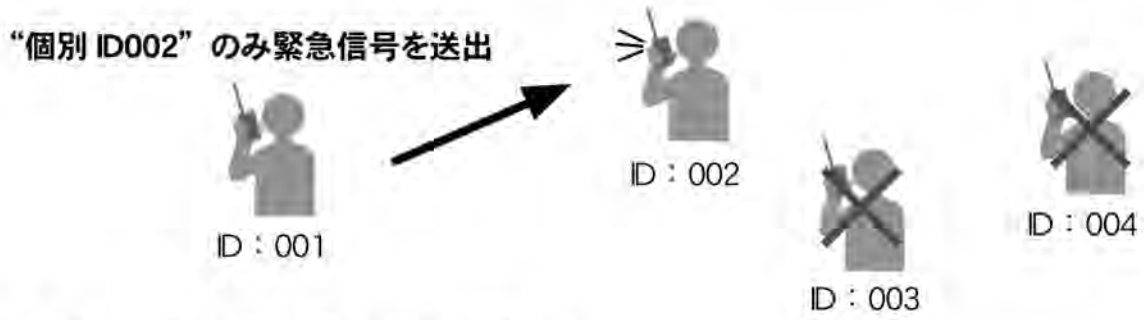
緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局のIDを表示します。次にLEDインジケーターが白色で点滅して、約5秒後にビープ音が鳴り続けます。各キーを押すとビープ音が停止します。 を押すと緊急受信状態が解除されます（ビープ・LEDインジケーター・ディスプレイ表示が停止する）。
その後、元の画面に戻ります。

PTT を押すと自動的に“一斉呼び出し”に切り替わり、通話することができます。

操作のしかた（個別通信機能）

緊急を“個別”で知らせる方法

緊急信号を特定の局のみに送出することができます。
例）個別 ID001 が個別 ID002 に緊急信号を送出する方法を説明します。



緊急を個別に知らせる方法の準備：

◎ セットモード“F30 プログラム 2 キー 長”を“緊急”に設定 (p.69 参照)
◎ セットモード“F05 緊急モード”を“サイレント +ID 送信”、“アラーム +ID 送信”または“ID 送信”に設定 (p.48 参照)
◎ コールモード“C08 緊急宛先”を“個別”に設定 (p.48 参照)
◎ コールモード“C09 緊急個別 ID”に例として“002”に設定 (p.49 参照)
◎ コールモード“C10 緊急応答宛先”を“個別応答”に設定 (p.49 参照)
◎ 簡易リスト“UC”で同じユーザーコードに設定
◎ ID：002 が同じチャンネルに設定

緊急信号を送出する：

◯ を長押しします。

ID002 のトランシーバーに緊急信号を送出し、トランシーバーのキー操作はロックされます。
LED インジケーターが白色に点滅し、ディスプレイに“個別 緊急”と表示します（“サイレント +ID 送信”の場合は表示しません）。
PTT を押すと、通話することができます。

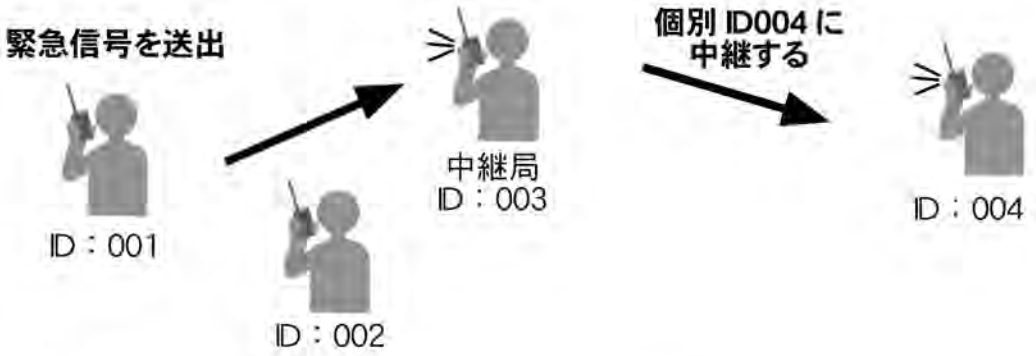
緊急信号を受信する：

緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局の ID を表示します。
次に LED インジケーターが白色で点滅して、約 5 秒後にビープ音が鳴り続けます。
各キーを押すとビープ音が停止します。 を押すと緊急受信状態が解除されます（ビープ・LED インジケーター・ディスプレイ表示が停止する）。
その後、元の画面に戻ります。

PTT を押すと自動的に“個別呼び出し”に切り替わり、通話することができます。

緊急を中継して知らせる方法

緊急信号を直接届かない局に、中継して特定の局のみに転送することができます。
例）緊急信号を個別 ID003（中継局）が個別 ID004 に中継する方法で、中継局の設定と転送方法を説明します。



受信した緊急信号を特定の局に転送する方法の準備：

中継局 ID003 の設定方法です。
◎ コールモード“C08 緊急宛先”を“個別”に設定 (p.48 参照)。
◎ コールモード“C09 緊急個別 ID”に例として“004”に設定 (p.49 参照)。
◎ コールモード“C10 緊急応答宛先”を“緊急応答”に設定 (p.49 参照)。
◎ 簡易リスト“UC”で同じユーザーコードに設定
◎ ID：002、003、004 が同じチャンネルに設定

緊急信号を転送する：

緊急信号を受信時に [PTT] を短押しします。

緊急個別 ID に設定した相手局に緊急信号を転送します。
[PTT] を押すと、通話することができます。

転送された緊急信号を受信する：

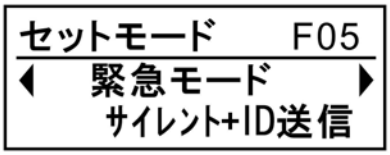
緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局の ID を表示します。次に LED インジケーターが白色で点滅して、約 5 秒後にビープ音が鳴り続けます。各キーを押すとビープ音が停止します。[↩] を押すと緊急受信状態が解除されます（ビープ・LED インジケーター・ディスプレイ表示が停止する）。

その後、元の画面に戻ります。すと自動的に“一斉呼び出し”に切り替わり、通話することができます。

操作のしかた（個別通信機能）

緊急アラーム機能の動作変更（F05 緊急モード）

1. [Ⓚ] 押しながら [電源] 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ([ノブ]) “セットモード” 選択 ➡ [Ⓚ]
3. [◀][▶] ([ノブ]) “F05 緊急モード” 選択 ➡ [Ⓚ]
4. [◀][▶] ([ノブ]) 希望の動作を選択 ➡ [Ⓚ]

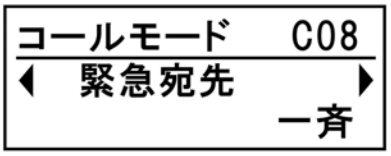


機能	ディスプレイ表示	LED 点滅	アラーム	ID 送信	PTT 操作
サイレント＋ID 送信（初期値）	×	×	×	○	○
ID 送信	○	○	×	○	○
アラーム	○	○	○	×	×
アラーム＋ID 送信	○	○	○	○	○
OFF	緊急アラーム機能は動作しません。				

5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

緊急信号を送出する際の宛先設定（C08 緊急宛先）

1. [Ⓚ] 押しながら [電源] 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ([ノブ]) “コールモード” 選択 ➡ [Ⓚ]
3. [◀][▶] ([ノブ]) “C08 緊急宛先” 選択 ➡ [Ⓚ]
4. [◀][▶] ([ノブ]) 希望の動作を選択 ➡ [Ⓚ]



一斉（初期値）	同一ユーザーの全ての局に対し、一斉に緊急を知らせることができます。
個別	特定の局にだけ、緊急を知らせることができます。 緊急を知らせたい相手局の個別 ID は “C09 緊急個別 ID” で設定します。

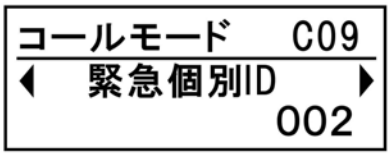
5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

補足 本設定はセットモード “F05 緊急モード” を “アラーム +ID 送信”、“サイレント +ID 送信”、“ID 送信” に設定した時に動作する機能です。

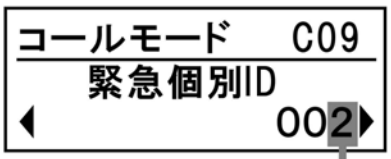
緊急を知らせたい相手局の個別 ID 設定（C09 緊急個別 ID）

コールモード“C08 緊急宛先”を“個別”に設定した場合、緊急を知らせたい相手の個別 ID を設定します。

1. [Ⓜ] 押しながら [電源] 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ([ ]) “コールモード” 選択 ⇒ [Ⓜ]
3. [◀][▶] ([ ]) “C09 緊急個別 ID” 選択 ⇒ [Ⓜ]



4. 希望の緊急個別 ID に選択動作を選択
   [◀][▶] 桁移動、
   [◎] アップ、[◯] ダウン、または [ ] ⇒ [Ⓜ]



カーソルが点滅

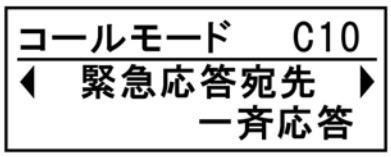
001 ～ 200 (初期値：002)
自局 ID と同じ ID は設定できません。

5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

緊急着信時の応答先設定（C10 緊急応答宛先）

緊急アラーム機能の動作が“サイレント +ID 送信”、“アラーム +ID 送信”または“ID 送信”の場合に応答先を設定します。

1. [Ⓜ] 押しながら [電源] 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ([ ]) “コールモード” 選択 ⇒ [Ⓜ]
3. [◀][▶] ([ ]) “C10 緊急応答宛先” 選択 ⇒ [Ⓜ]
4. [◀][▶] ([ ]) 希望の動作を選択 ⇒ [Ⓜ]



一斉応答（初期値）	宛先を「一斉」に切替えます。
緊急応答	C08 緊急宛先で設定している緊急宛先に切替え、緊急信号を送出します。
個別応答	宛先を相手局の「個別 ID」に切替えます。

5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

便利な機能

録音メモ機能

録音

ワンタッチで相手の音声を録音することができます。後で繰り返し内容を確認することができます。

補足 ◎（プログラム 1 キー 短）には、あらかじめ初期値として“録音キー”を登録しています。登録の確認は必要に応じて使用する機能のプログラムキーを参照してください（p.69 参照）。

録音のしかた：

◎ を短押しします。

待ち受けの場合は待機状態となり、信号を受信すると録音を開始します。

受信中に ◎ を押すと、直ちに録音を開始します。

再び ◎ を押すと、録音の待ち受けを停止します。

注意 ○すでに 5 件の録音がされている場合はを押しても録音されません。
○連続で受信したときには、録音件数が 1 件になる場合があります。

補足 ○ 録音可能な時間には制限があり、1 件に付き最大約 60 秒録音することができます。
○ 件数は 5 件まで可能です。

1 件	2 件	3 件	4 件	5 件

5 件まで録音可能（合計約 5 × 60 ＝ 300 秒以内）

1 件：50 秒	2 件：20 秒	3 件：45 秒	4 件：5 秒	5 件：無し

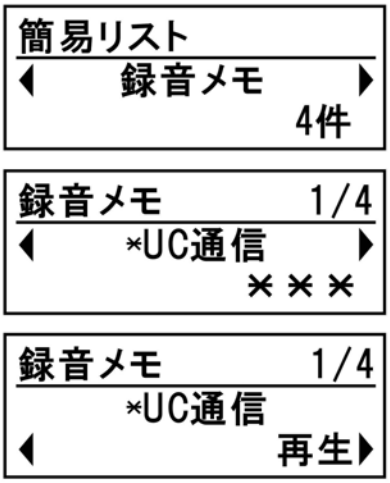
件数は 5 件まで

○ 録音件数を超えた場合は、録音されませんので、不要となった録音メモは消去してください。

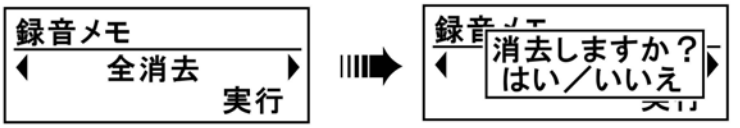
録音メモ

上記で録音した内容を再生 / 消去することができます。

1. ◉ 短押し（簡易リスト）
2. ◀ ▶（🖐）“録音メモ”選択 ➡ ◉
3. ◀ ▶（🖐）再生したい録音メモを選択 /
   全消去を選択 ➡ ◉
4. 再生したい録音メモを選択した場合
5. ◀ ▶（🖐）“再生”/“消去”選択 ➡ ◉
6. ◉ “再生” ➡ ◉ 再生中に押すと“停止”

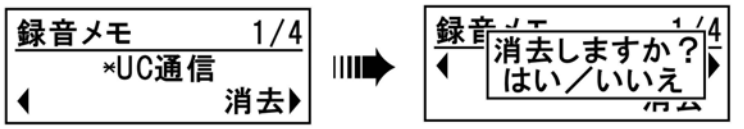


手順 3. で全消去を選択した場合



◀ ▶（🖐）“はい”/“いいえ”選択 ➡ ◉

手順 5. で消去を選択した場合



◀ ▶（🖐）“はい”/“いいえ”選択 ➡ ◉

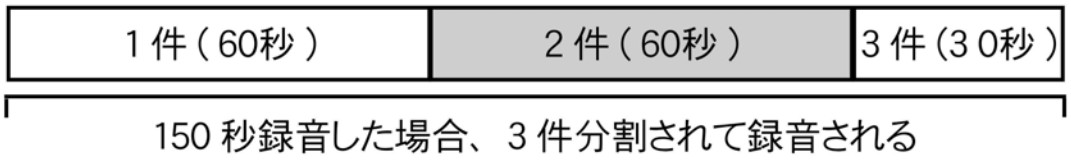
リピート再生

トランシーバーの電源を入れると、自動的に相手の音声を録音する機能が開始します。通話内容を聞き逃した時などに、内容を確認することができます。

補足

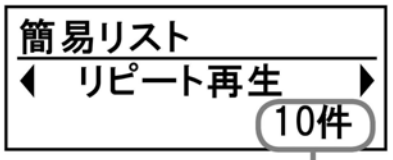
○ 最大 10 件まで録音されます。
1 件あたり、最大 60 秒まで録音されます。

○ 150 秒録音した場合、3 件分割されて録音されます。
新たに録音する場合は 4 件目から録音されます。

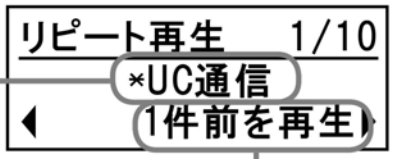


○ 10 件を超えて録音される場合は、古い件数の順から既に録音された内容に上書きされていきます。
○ 電源を切ると、録音された内容は消去されます。

1. **短押し（簡易リスト）**
2. **（ ）“リピート再生”選択** ➡
3. **（ ）再生音声の選択**
4. **録音内容を再生**
   再生中“停止”



録音が無い場合は“録音無し”と表示する



UC 通信の表示例：
個別通信の表示例：宛先が表示される
ALL の場合：**ALL**
個別 002 から応答録音の場合：**コベツ 002**
グループ 01 から応答録音の場合：**グループ 01**

1 件前を再生とは、「1 件目のリピートあり」を表す
 を押すと 1 件前を再生

イコライザー機能

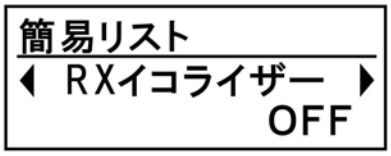
RX イコライザー

受信音を好みの音質に変更することができます。

1. [MENU] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（ノブ）“RX イコライザー” 選択 ➡ [MENU]
3. [◀][▶]（ノブ）希望の音質に選択 ➡ [MENU]

   OFF/ 低域強調 / 高域強調

4. [BACK] チャンネル表示に戻る



TX イコライザー

送信音を好みの音質に変更することができます。

1. [MENU] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（ノブ）“TX イコライザー” 選択 ➡ [MENU]
3. [◀][▶]（ノブ）希望の音質に選択 ➡ [MENU]

   OFF/ 低域強調 / 高域強調

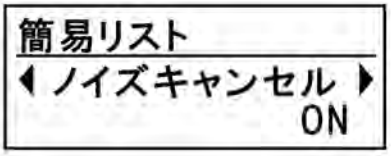
4. [BACK] チャンネル表示に戻る

操作のしかた（便利な機能）

ノイズキャンセル機能

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信する「ノイズキャンセル機能」を設定します。

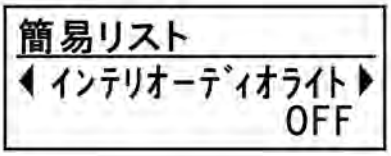
1. [M] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（[PTT]）“ノイズキャンセル” 選択 ➡ [M]
3. [◀][▶]（[PTT]）“ON” / “OFF” 選択 ➡ [M]
4. [↩] チャンネル表示に戻る



インテリジェントオーディオライト機能

突然騒音が激しくなった時に受信音の音量をコントロールし、聴きやすい音量に自動調整します。

1. [M] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（[PTT]）“ｲﾝﾃﾘｵｰﾃﾞｨｵﾗｲﾄ” 選択 ➡ [M]
3. [◀][▶]（[PTT]）“ON” / “OFF” 選択 ➡ [M]
4. [↩] チャンネル表示に戻る

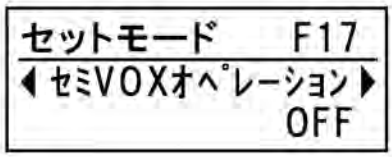


セミ VOX オペレーション機能（F17 セミ VOX オペレーション）

オプションの外部マイクロホンやタイピンマイクを接続して使用する機能です（p.66 参照）。オプションの PTT スイッチを短押しで送信を開始し、話が終わり音声入力が無くなると自動的に待ち受けに戻ります。

1. “VOX 機能を使用する”（簡易リスト “VOX”）を “ON” にします
2. [M] 押しながら [PTT] 電源を入れる（拡張機能）
3. [◀][▶]（[PTT]）“セットモード” 選択 ➡ [M]
4. [◀][▶]（[PTT]）“F17ｾﾐVOXｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ” 選択 ➡ [M]
5. [◀][▶]（[PTT]）“ON” 選択 ➡ [M]
6. [PTT] 電源を切り、再度電源を入れる
7. ディスプレイに “ VOX ” アイコンが点灯する
8. 外部マイクロホンの PTT スイッチを短押しすると “ VOX ” アイコンに変わると共に、送信を開始する。

   補足 PTT スイッチを短押しした後に、適切な音声入力が無い場合は、送信を停止し無効ビープを鳴らして知らせます。
9. 話が終わると自動的に待ち受けになり “ VOX ” アイコンに戻る



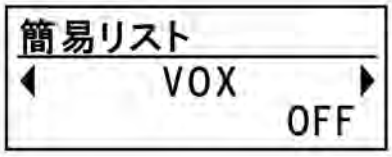
VOX 機能

オプションの外部マイクロホンやタイピンマイクを接続して使用する機能です（p.66 参照）。PTT スイッチを押さなくても、音声により送信 / 待ち受けを自動的に切り替えることができます。話すと送信、話をやめると待ち受けの状態に戻ります。

VOX 機能を使用する

VOX 機能を使用するときは ON に設定します。

1. [MENU] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（ノブ）“VOX” 選択 ➡ [MENU]
3. [◀][▶]（ノブ）“ON” 選択 ➡ [MENU]
4. [BACK] チャンネル表示に戻る
5. ディスプレイに “VOX” アイコンが点灯する
6. オプションのマイクに向かって話をすると同時に送信を開始する
7. 話が終わると自動的に待ち受けに戻る



VOX の感度調整

送信状態になるときの感度を調整します。必要に応じて調整してください。

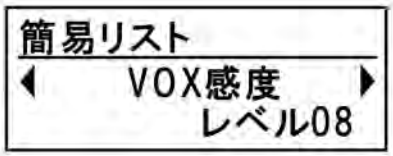
注意 周囲の雑音が大きく、話をしていないのに送信状態になる場合は、VOX 感度を下げて（数値を小さくする）大きめな音声で話をしてください。

1. [MENU] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（ノブ）“VOX 感度” 選択 ➡ [MENU]
3. [◀][▶]（ノブ）希望の VOX 感度を選択 ➡ [MENU]

レベル 00・・・15（初期値：レベル 08）

調整中、音声入力レベルに応じて LED インジケーターが黄色に点灯します。

4. [BACK] チャンネル表示に戻る



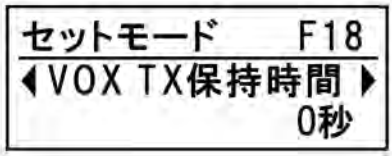
VOX TX 保持時間（F18 VOX TX 保持時間）

送信から待ち受けに戻るまでの時間を調整します。必要に応じて調整してください。

1. [MENU] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ノブ）“セットモード” 選択 ➡ [MENU]
3. [◀][▶]（ノブ）“F18 VOX TX 保持時間” 選択 ➡ [MENU]
4. [◀][▶]（ノブ）希望の時間を選択 ➡ [MENU]

0/0.2/0.5/1.0 秒（初期値：0 秒）

5. 電源を切り、再度電源を入れる



操作のしかた（便利な機能）

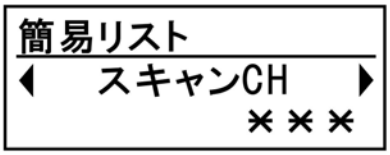
スキャン機能

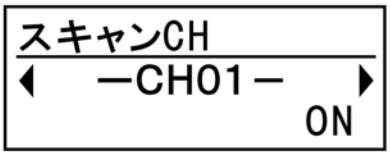
スキャン機能にはプログラムスキャン機能とデュアルレシーブ機能があります。
プログラムスキャン機能は、スキャンしたい複数のチャンネル（スキャンチャンネル）をあらかじめ設定し、スキャンチャンネルと通話チャンネルを自動的に切り替えてモニターしながら待ち受けします（初期値：操作方法は下記参照）。
デュアルレシーブスキャン機能は、現在の通話チャンネルと事前に設定した一つのスキャンチャンネルを自動的に切り替えモニターしながら待ち受けします（p.57 参照）。

プログラムスキャン機能を使用する

プログラムチャンネルの登録：

1. セットモード“F23 スキャンタイプ”が“プログラム”に設定されているか確認する（p.57 参照）
2. ◉ 短押し（簡易リスト）
3. ◀ ▶（ ）“スキャン CH”選択 ➡ ◉
4. ◀ ▶（ ）スキャンに登録 / 解除したいチャンネルを選択 ➡ ◉
5. ◀ ▶（ ）“ON”/“OFF”選択 ➡ ◉
6. 他のチャンネルを登録する場合は、手順 3 ～ 5 を繰り返し設定する





CH01・・・CH82、（上空 -1・・・上空 -15）、ALL CH
スキャンしたいチャンネルを選択し“ON”に設定、“OFF”に設定すると無効になります。“ALL CH”は全チャンネルを一括で ON/OFF が可能です。

7. ↩ ➡ ↩ チャンネル表示に戻る（スキャンチャンネルには“↻”が点灯）

スキャンを開始する：

◉ 短押しする

ディスプレイに“↻”アイコンが点灯し、通話チャンネルと事前に登録したスキャンチャンネルをスキャンします。信号を受信するとスキャンは停止し“↻”を点滅します。ユーザーコードが000及びユーザーコードが一致している場合にスキャンが停止します。ユーザーコードが一致しない局が通話チャンネルまたはスキャンチャンネルで交信を続けている間は、LED インジケーターが緑色に点滅しますがスキャンは停止しません。

注意 スキャン機能はあらかじめ“プログラム 2 キー短押し”に登録してあります。スキャン機能を他のプログラムキーに登録した場合は、登録したキーを押してください。

スキャンを終了する：

スキャン中に ◉ 短押しする

デュアルレシーブ機能を使用する（F23 スキャンタイプ）

スキャンタイプの切り替え：

セットモード“F23 スキャンタイプ”を“デュアルレシーブ”に設定します。

1. [◉] 押しながら [電源] 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（[電源]）“セットモード”選択 ⇒ [◉]
3. [◀][▶]（[電源]）“F23 スキャンタイプ”選択 ⇒ [◉]
4. [◀][▶]（[電源]）デュアルレシーブに選択 ⇒ [◉]

セットモード　F23
◀ スキャンタイプ ▶
デュアルレシーブ

プログラム（初期値）	◯ 短押しで、プログラムスキャン機能が動作します。
デュアルレシーブ	◯ 短押しで、デュアルレシーブ機能が動作します。

5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

デュアルレシーブのスキャンチャンネル登録：

1. [◉] 短押し（簡易リスト）
2. [◀][▶]（[電源]）“スキャン CH”選択 ⇒ [◉]
3. [◀][▶]（[電源]）スキャンしたいチャンネルを選択 ⇒ [◉]

簡易リスト
◀ スキャンCH ▶
－CH01－

CH01・・・CH82、（上空 -1・・・上空 -15）、ALL CH
スキャンしたいチャンネルを選択します。

4. [↩] ⇒ [↩] チャンネル表示に戻る（スキャンチャンネルには“🔄”が点灯）

スキャンを開始する：

◯ 短押しする

ディスプレイに“🔄”アイコンが点灯し、通話チャンネルと事前に登録したスキャンチャンネルを交互にスキャンします。信号を受信するとスキャンは停止し“🔄”を点滅します。ユーザーコードが000及びユーザーコードが一致している場合にスキャンが停止します。ユーザーコードが一致しない局が通話チャンネルまたはスキャンチャンネルで交信を続けている間は、LED インジケーターが緑色に点滅しますがスキャンは停止しません。

スキャンを再開する：

スキャン停止中にロータリースイッチを回すとスキャンを再開できます。

注意 スキャン機能はあらかじめ“プログラム 2 キー短押し”に登録してあります。スキャン機能を他のプログラムキーに登録した場合は、登録したキーを押してください。

スキャンを終了する：

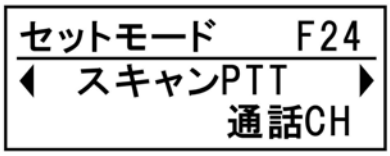
スキャン中に ◯ 短押しする

操作のしかた（便利な機能）

スキャン中に送信するチャンネルを設定する（F24 スキャン PTT）

スキャン中に PTT を押したときに送信するチャンネルを指定します。

1. [▶] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“セットモード” 選択 ➡ [▶]
3. [◀][▶]（ ）“F24 スキャン PTT” 選択 ➡ [▶]
4. [◀][▶]（ ）希望の動作を選択 ➡ [▶]



通話 CH（初期値）	通話チャンネルで送信します。
最終通話 CH	最後にスキャンで停止したチャンネルで送信します。
AUTO	プログラムスキャン機能使用中、スキャンチャンネルから空いているチャンネルを自動で探しだし送信します。 相手の信号が十分強い状態の中で使用してください。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足 スキャン PTT の応用例（自動チャンネル選択の運用）

スキャン PTT を AUTO に設定し、例えばプログラムスキャンでスキャンチャンネルを1CH と4CH に設定後、通話チャンネルを7CH でスキャンを開始します。この設定では、スキャン中にトランシーバーの PTT を押すと通常は7CH で通話しますが、もし他局が7CH を使用していた場合、スキャンチャンネル1CH と4CH をスキャンし、いずれか空いてるチャンネルで送信を開始します。つまり、この機能を使用することで、通常の待ち受けチャンネルが使用されている場合でも、他のスキャンチャンネルが空いていれば、そのチャンネルにて即座に交信を開始できます。

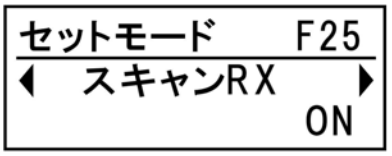
自動チャンネル選択を有効に使うためには：

- 相手も同じスキャンチャンネルとユーザーコードを設定する。
- スキャンチャンネルを通話チャンネルと合わせて 3 チャンネル程度で運用する（音声の頭切れを防ぐため）。

スキャンの再開動作を設定する（F25 スキャン RX）

着信後、スキャンを再開させるかを設定します。

1. [▶] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“セットモード” 選択 ➡ [▶]
3. [◀][▶]（ ）“F25 スキャン RX” 選択 ➡ [▶]
4. [◀][▶]（ ）希望の動作を選択 ➡ [▶]



ON（初期値）	通話終了後“↻”が点滅し、自動（約 5 秒）でスキャンが開始します。
OFF	着信後、スキャンは終了し、着信したチャンネルで待ち受け動作に移行します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

セカンダリPTT (スキャンチャンネルの PTT 操作)

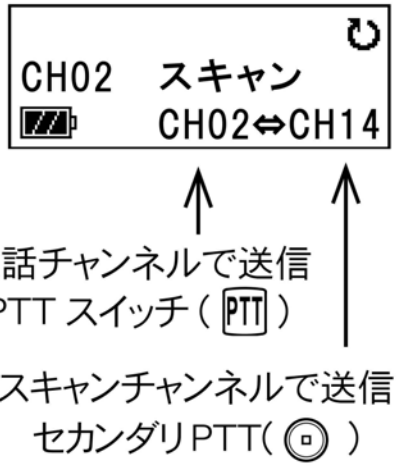
デュアルレシーブ中 (p.57 参照) に ◎ を押すと、登録したスキャンチャンネルで送信することができます。

注意
- ○あらかじめセカンダリPTT 機能を“プログラム 1 キー短押し”（ ◎ ）に登録してください（p.69 参照）。
- ○セットモード“F24 スキャン PTT”を“通話 CH”に設定してください。

操作：

デュアルレシーブ中に、◎ を長押しする

通話中押し続け、放すと待ち受けの状態に戻ります。



補足
- ○ スキャン RX が ON のときは、待ち受けから 5 秒後にスキャンを開始します。
- ○ デュアルレシーブ中に PTT を押すと通話チャンネルで送信します。
- ○ スキャンが停止し ↻ が点滅中に PTT を押すと停止チャンネルで送信します。

バックライト

プログラムキーを押すと、ディスプレイのバックライトが 5 秒間点灯します。もう一度押すとバックライトは消灯します。

注意 あらかじめバックライト機能を“プログラム 2 キー 長押し”（ ◯ ）に登録されています（p.69 参照）。

操作：

◯ 長押しする

音声案内 (ボイスチャンネルアナウンス)

現在のチャンネル番号を音声案内で確認することができます。

注意 あらかじめ音声案内機能をプログラムキー（ ◎ または ◯ ）に登録してください（p.69 参照）。

操作：

登録したプログラムキーを押す

チャンネル番号を音声で読み上げます。

CH01 の場合は「いち」とアナウンスします。

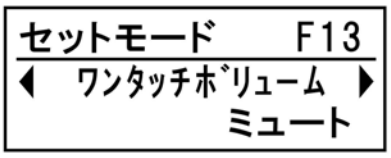
操作のしかた（便利な機能）

ワンタッチで音量を下げる（F13 ワンタッチボリューム）

あらかじめ機能を割りつけたプログラムキー（◎ または ◯ ）を押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に下げることができます。もう一度キーを押すと解除されます。

補足 プログラムキーの割り付け方法は“プログラムキーの設定を変更する”を参照してください（p.69 参照）。

1. ◎ 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. ◀ ▶（ ）“セットモード”選択 ➡ ◎
3. ◀ ▶（ ）“F13 ワンタッチボリューム”選択 ➡ ◎
4. ◀ ▶（ ）希望の音量減衰量を選択 ➡ ◎



ミュート（初期値）	プログラムキーを押したとき、音が出ない状態になります。
-30%	プログラムキーを押したとき、約 30%音量が下がります。
-60%	プログラムキーを押したとき、約 60%音量が下がります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

操作：

登録したプログラムキーを押す

ワンタッチで音量を一時的に下げることができます。
再度押すと、元の音量に戻ります。

必要に応じて使う機能

ピープ音量調整（F01 ビープレベル）

音量調節ツマミの音量と連動していますが、ビープ音の音量のみ調整することができます。レベル 00 にするとビープ音は鳴らなくなり、レベル 15 にすると音量よりもビープ音が大きくなります。

1. [ ] 押しながら 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ( ) “セットモード” 選択 [ ]
3. [◀][▶] ( ) “F01 ビープレベル” 選択 [ ]
4. [◀][▶] ( ) 希望のビープレベルを選択 [ ]

   レベル 00 ～ 15（初期値：08）

5. 電源を切り、再度電源を入れる

セットモード　F01
◀ ビープレベル ▶
レベル08

ディスプレイのコントラスト調整（F16 コントラスト）

ディスプレイのコントラスト（文字の濃度）を調整します。

1. [ ] 押しながら 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ( ) “セットモード” 選択 [ ]
3. [◀][▶] ( ) “F16 コントラスト” 選択 [ ]
4. [◀][▶] ( ) 希望のコントラストを選択 [ ]

   レベル 00 ～ 15（初期値：08）

5. 電源を切り、再度電源を入れる

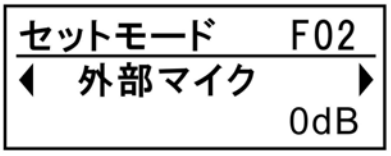
セットモード　F16
◀ コントラスト ▶
レベル08

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

マイクレベルの調整（F02、F03）

外部マイクの感度設定（F02 外部マイク）

1. [ ] 押しながら 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ( ) “セットモード” 選択 [ ]
3. [◀][▶] ( ) “F02 外部マイク” 選択 [ ]
4. [◀][▶] ( ) 希望のマイク感度を選択 [ ]

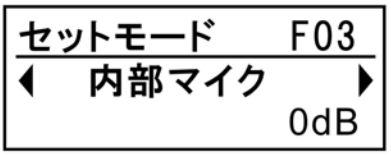


-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10（初期値：0）dB

5. 電源を切り、再度電源を入れる

内部マイクの感度設定（F03 内部マイク）

1. [ ] 押しながら 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ( ) “セットモード” 選択 [ ]
3. [◀][▶] ( ) “F03 内部マイク” 選択 [ ]
4. [◀][▶] ( ) 希望のマイク感度を選択 [ ]



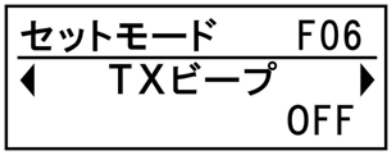
-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10（初期値：0）dB

5. 電源を切り、再度電源を入れる

送信（TX）ビープと受信（RX）ビープ（F06、F07）

送信開始時にビープが鳴る（F06 TX ビープ）

1. [MONI] 押しながら [PTT] 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（[PTT]）“セットモード”選択 ⇒ [MONI]
3. [◀][▶]（[PTT]）“F06 送信ビープ”選択 ⇒ [MONI]
4. [◀][▶]（[PTT]）希望の動作を選択 ⇒ [MONI]



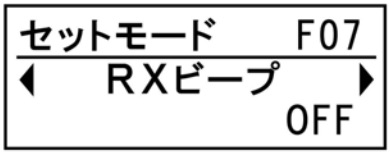
OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	送信を開始するとビープ音が鳴ります。

5. [PTT] 電源を切り、再度電源を入れる

通話が終了するとビープが鳴る（F07 RX ビープ）

受信中の通話が終了したことを知らせるビープ音の動作を設定します。個別通信時または、“000”以外の同じユーザーコードに設定してある相手局の信号を受信した時のみ動作します。

1. [MONI] 押しながら [PTT] 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（[PTT]）“セットモード”選択 ⇒ [MONI]
3. [◀][▶]（[PTT]）“F07 受信ビープ”選択 ⇒ [MONI]
4. [◀][▶]（[PTT]）希望の動作を選択 ⇒ [MONI]



OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	通話が終了するとビープ音が鳴ります。

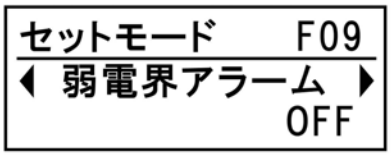
5. [PTT] 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

信号が極端に弱くなると知らせる（F09 弱電界アラーム）

受信している信号が、極端に弱くなったことを知らせるアラーム音の動作を設定します。

1. [MENU] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“セットモード”選択 ➡ [MENU]
3. [◀][▶]（ ）“F09 弱電界アラーム”選択 ➡ [MENU]
4. [◀][▶]（ ）希望の動作を選択 ➡ [MENU]



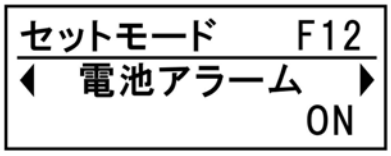
OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	受信信号が極端に弱くなると、アラーム音が鳴ります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

電池パックが消耗するとアラームで知らせる（F12 電池アラーム）

ビープ音により、バッテリーの残量が少なくなったことを知らせる機能の動作を設定します。

1. [MENU] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“セットモード”選択 ➡ [MENU]
3. [◀][▶]（ ）“F12 電池アラーム”選択 ➡ [MENU]
4. [◀][▶]（ ）希望の動作を選択 ➡ [MENU]



OFF	機能は動作しません。
ON（初期値）	バッテリーの残量が少なくなると、2 分間隔でアラーム音が鳴ります。

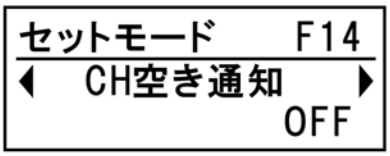
5. 電源を切り、再度電源を入れる

補足 アラームがなった際には、速やかに電池パックを交換または充電を行ってください。

チャンネルが空いたとき通知する（F14 CH 空き通知 ）

使用したいチャンネルがすでに交信中で PTT を押したときに“Wait”表示が出た場合、もう一度PTTスイッチを短押しすると空き通知機能が動作し、その後チャンネルが空いた状態になるとビープ音で知らせます。

1. [Ⓚ] 押しながら [電源] 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ([電源]) “セットモード” 選択 ➡ [Ⓚ]
3. [◀][▶] ([電源]) “F14 CH 空き通知” 選択 ➡ [Ⓚ]
4. [◀][▶] ([電源]) 希望の動作を選択 ➡ [Ⓚ]



OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	チャンネルが空くとビープ音で通知します。

5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

オプションの電源供給（F15 ACC 電源 ）

5V の電源を必要とするオプションを接続する場合、この機能を ON に設定します。

1. [Ⓚ] 押しながら [電源] 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ([電源]) “セットモード” 選択 ➡ [Ⓚ]
3. [◀][▶] ([電源]) “F15 ACC 電源” 選択 ➡ [Ⓚ]
4. [◀][▶] ([電源]) 希望の動作を選択 ➡ [Ⓚ]

OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	MIC/SP 端子から、5V の電源を供給します。

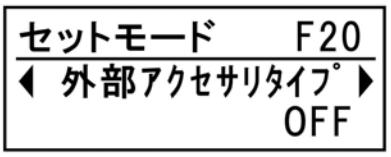
5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

イヤホン / スピーカーマイクの特性補正 （F20 外部アクセサリタイプ）

オプションのイヤピース・イヤホンやスピーカーマイクのスピーカーオーディオ特性を最適な特性にするための機能です。

1. **[Lamp] 押しながら [PTT] 電源を入れる (拡張機能)**
2. **[◀][▶] ([PTT]) “セットモード” 選択 ➡ [Lamp]**
3. **[◀][▶] ([PTT]) “F20 外部アクセサリタイプ” 選択 ➡ [Lamp]**
4. **[◀][▶] ([PTT]) 希望のオプションを選択 ➡ [Lamp]**



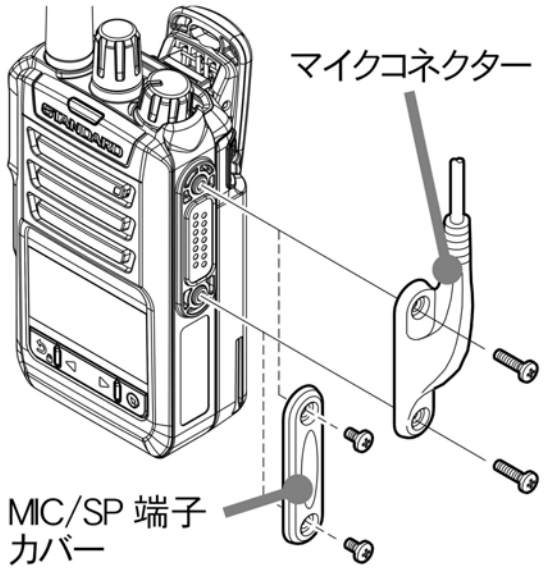
OFF（初期値）	機能は動作しません。
イヤホン	イヤホンを接続したときに最適な特性に補正します。
スピーカマイク※1	当社指定オプションのスピーカーマイクロホンを接続したときに最適な特性に補正します。 **注意：VOX 機能やセミ VOX 機能をスピーカーマイクで使用する場合は、VOX 動作の誤送信を防止するため、必ず「スピーカマイク」を選択してください。**

5. **[PTT] 電源を切り、再度電源を入れる**

補足 適合オプション（p.74 参照）
※ 1：MH-66A7A、MH-82A7A、MH-83A7A

外部マイクロホンの取り付け

MIC/SP 端子カバーのビスを外し、オプションに付属のビスを取り付けます。

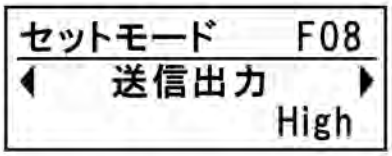


補足
- ○ MIC/SP 端子を時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、接触不良になって、正しく使用できなくなります。
- ○ オプションを接続しないときは、MIC/SP 端子カバーを取り付けてください。

送信出力の設定（F08 送信出力）

送信出力（発射する電波の強さ）を“High”（5W）、“Mid”（2.5W）、“Low”（1W）から選択することができます。距離の近い相手と交信するときは、送信出力を“Mid”または“Low”に切り替えると電池パックの消耗を減らすことができます。また、本機を受信専用機として使用する場合は“受信専用”に設定してください。

1. [MONI] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“セットモード”選択 ➡ [MONI]
3. [◀][▶]（ ）“F08 送信出力”選択 ➡ [MONI]
4. [◀][▶]（ ）希望の送信出力を選択 ➡ [MONI]



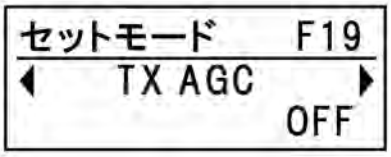
High（初期値）	送信出力 5W、送信時ディスプレイに が点灯します。
Mid	送信出力 2.5W、送信時ディスプレイに が点灯します。
Low	送信出力 1W、送信時ディスプレイに が点灯します。
受信専用	PTT スイッチを押しても、送信しなくなります。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

適切なマイク感度に自動調整する（F19 TX AGC）

内部マイクを使用中、音声の大小に応じて自動で適切なマイク感度に調整します。

1. [MONI] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（ ）“セットモード”選択 ➡ [MONI]
3. [◀][▶]（ ）“F19 TX AGC”選択 ➡ [MONI]
4. [◀][▶]（ ）希望の動作を選択 ➡ [MONI]



OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	内部マイクを使用中、自動で適切なマイク感度に調整します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

注意

- TX AGC が ON のときは、セットモード“F03 内部マイク”の設定値は無視されます。
- TX AGC は内部マイクのみの機能で外部マイクでは動作しません。

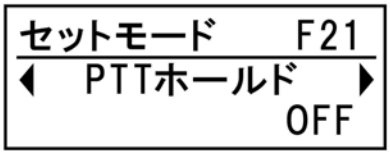
操作のしかた（必要に応じて使う機能）

PTT をホールドタイプに変更する（F21 PTT ホールド）

初期値“OFF”は PTT（PTT スイッチ）を押している間のみ送信し、放すと待ち受けの状態になります。

“ON”に設定した場合、PTT を一度押すと送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻る“ホールド機能付き PTT スイッチ”として動作します。

1. **[F] 押しながら 電源を入れる（拡張機能）**
2. **[◀][▶]（ ）“セットモード”選択 [F]**
3. **[◀][▶]（ ）“F21 PTT ホールド”選択 [F]**
4. **[◀][▶]（ ）希望の動作を選択 [F]**



OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	ホールド機能付き PTT スイッチとして動作します。

5. **電源を切り、再度電源を入れる**

補足 連続送信時間は 5 分以内と電波法で定められています。本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後に「ピピピ」と警告音が鳴ります。
5 分が経過する前に自動で送信が止まり、待ち受けの状態に戻ります。
その後 1 分間は送信禁止状態になります。警告音が鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

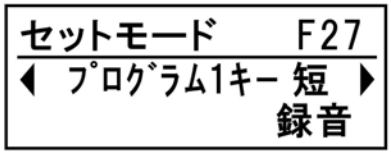
注意 トランシーバー本体の PTT スイッチのみ PTT ホールド機能が動作します。外部マイクの PTT スイッチを押しても動作しません。なお、外部マイクを接続した状態でも、本体の PTT スイッチは PTT ホールド機能として動作します。

プログラムキーの設定を変更する（F27 ～ F30）

2 つのプログラムキー（ ◎ または ◯ ）の機能を変更することができます。

補足
プログラム 1 キー：◎
プログラム 2 キー：◯

1. [◎] 押しながら [電源] 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ([電源]) “セットモード” 選択 ➡ [◎]
3. [◀][▶] ([電源]) “F27 プログラム 1 キー 短” ～ “F30 プログラム 2 キー 長” 選択 ➡ [◎]
4. [◀][▶] ([電源]) 希望の機能を選択 ➡ [◎]



録音 （初期値：プログラム 1 キー 短押し）	ワンタッチで相手の音声を録音することができます。後で繰り返し内容を確認することができます（p.50 参照）。
スキャン （初期値：プログラム 2 キー 短押し）	現在の通話チャンネルと事前に設定したスキャンチャンネルを自動的に切り替えモニターしながら待受けができます（p.56 参照）。
音声案内	現在のチャンネル番号を音声案内で確認することができます（p.59 参照）。
バックライト （初期値：プログラム 2 キー 長押し）	キーを押すと、ディスプレイのバックライトが 5 秒間点灯します。もう一度押すとバックライトは消灯します（p.59 参照）。
ワンタッチボリューム	キーを押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に下げることができます。もう一度キーを押すと解除されます。（p.60 参照）。
セカンダリPTT （プログラム 1 キー 短押しのみ設定可能）	デュアルレシーブ中に、プログラムキーを押すと、登録したスキャンチャンネルで送信することができます（p.59 参照）。 注：セカンダリPTT を設定した場合、プログラム 1 キー長押し機能は無効となり設定できません。
緊急 （プログラム 2 キー 長押しのみ設定可能）	緊急事態をアラーム音とLED の表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して他の仲間に緊急を知らせることができる機能です（p.45 参照）。
OFF	機能は動作しません。

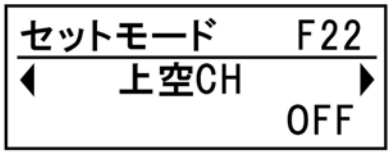
5. [電源] 電源を切り、再度電源を入れる

操作のしかた（必要に応じて使う機能）

上空用チャンネルをモニターする（F22 上空 CH）

上空用チャンネルをモニターすることができます。なお、本機では上空用チャンネルで送信することはできません。

1. [MONI] 押しながら [PWR] 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（[DIAL]）“セットモード”選択 ➡ [MONI]
3. [◀][▶]（[DIAL]）“F22 上空 CH”選択 ➡ [MONI]
4. [◀][▶]（[DIAL]）希望の動作を選択 ➡ [MONI]



OFF（初期値）	機能は動作しません。
モニタ	上空用チャンネルが追加され、モニターすることができます。

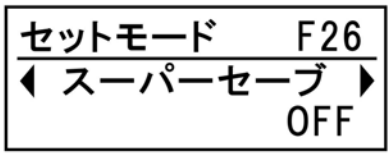
5. [PWR] 電源を切り、再度電源を入れる

補足 上空チャンネルを“モニタ”に設定した場合、上空チャンネルをスキャンチャンネルに選択すると、上空チャンネルをスキャンすることができます（p.56 参照）。

電池パックの消耗を防ぐ（F26 スーパーセーブ）

通常でもバッテリーセーブは動作していますが、このスーパーセーブはさらに強力なセーブ機能です。ONに設定すると、待ち受け状態で約 2 秒間キー操作がないと電池パックの消耗を防ぐセーブ機能が動作します。信号を受信時またはキー操作やチャンネル切り替えを行うとセーブ機能は解除されます。

1. [MONI] 押しながら [PWR] 電源を入れる（拡張機能）
2. [◀][▶]（[DIAL]）“セットモード”選択 ➡ [MONI]
3. [◀][▶]（[DIAL]）“F26 スーパーセーブ”選択 ➡ [MONI]
4. [◀][▶]（[DIAL]）希望の動作を選択 ➡ [MONI]



OFF（初期値）	機能は動作しません。
ON	スーパーセーブ機能が動作し、通常よりもより一層電池パックの消耗を防ぎます。

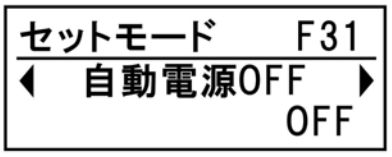
5. [PWR] 電源を切り、再度電源を入れる

補足
- ○ スーパーセーブ機能を“ON”に設定すると、PTT スイッチを押して送信を始めた際にビープ音が鳴ります（送信ビープ）ので、鳴った後に話をしてください。スーパーセーブ機能を“OFF”に設定すると、送信ビープも“OFF”になります。
- ○ スーパーセーブ機能を“ON”に設定すると、受信中頭切れを起こすことがあります。頭切れを防止するために、相手局についてもスーパーセーブ機能を“ON”に設定することをお勧めします。

2 時間オフタイマー（F31 自動電源 OFF）

2 時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にし、電池パックの消耗を防ぎます。1 分前に警告音が鳴り、電源が切れます。

1. [決定] 押しながら 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ( ) “セットモード” 選択 ➡ [決定]
3. [◀][▶] ( ) “F31 自動電源 OFF” 選択 ➡ [決定]
4. [◀][▶] ( ) 希望の動作を選択 ➡ [決定]



OFF（初期値）	オフタイマーは動作しません。
ON	2 時間のオフタイマーが動作します。

5. 電源を切り、再度電源を入れる

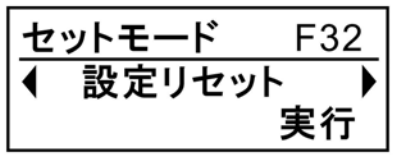
拡張機能の設定を初期値に戻す（F32 設定リセット）

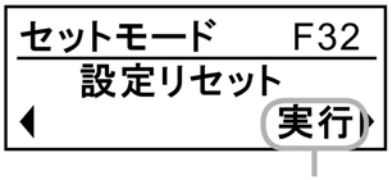
拡張機能の設定をリセットし、初期値の状態に戻します。

1. [決定] 押しながら 電源を入れる (拡張機能)
2. [◀][▶] ( ) “セットモード” 選択 ➡ [決定]
3. [◀][▶] ( ) “F32 設定リセット” 選択 ➡ [決定]
4. [決定] 設定リセットを実行

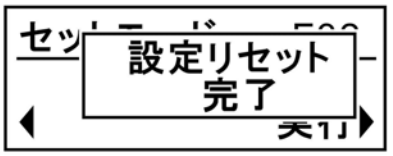
   キャンセルの場合は、

   [◀][▶] ( ) で “キャンセル” を選択
5. 電源を切り、再度電源を入れる





設定リセットを実行する



付 録

故障かな？と思う前に. . .

間違った操作をしていませんか？ 修理を依頼される前に、ご確認ください。

◎ 電源が入らない！

- 電池パックが消耗していませんか？
  ➠電池パックを充電してください。
- 電池パックの端子が接触不良になっていませんか？
  ➠ 端子を乾いた布で拭いてください。
- 電池パックが古くなっていませんか？
  ➠ 電池パックの寿命です。 新しい電池パックとお取り替えください。

◎ 送信できない！

- PTT スイッチを正しく押していますか？
- 相手局が通話中ではありませんか？
  ➠ 通話が終わるまでお待ちください。
- キーロック機能が動作していませんか？
- 送信出力の設定が“受信専用”になっていませんか？
- 上空用チャンネルになっていませんか？
  ➠“上空 -1”～“上空 -15”チャンネルは、モニターのみで送信することはできません。

◎ 通話できない！

- 相手局と同じチャンネルに設定していますか？
- 相手局との距離が離れすぎていませんか？
- 相手局と同じ通信方式に設定していますか？
- 相手局と同じユーザーコードに設定していますか？
- 秘話機能が動作していませんか？
  ➠ お互いに秘話機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

定 格

送受信周波数： デジタル簡易無線登録局 (6.25kHz間隔, 全82波)
351.03125 ～ 351.10000MHz (12波)
351.20000 ～ 351.63125MHz (70波)
上空用チャンネル(6.25kHz間隔, 全15波, モニターのみ可)
351.10625 ～ 351.16250MHz (10波)
351.16875 ～ 351.19375MHz (5波)

変 調 方 式： 4 値 FSK
通 信 方 式： 単信 (プレストーク) 方式
送 信 出 力： 5W/2.5W/1W (＋ 20%、 － 50% 以内)
低周波出力： 0.7W 以上 (10% 歪時)
電池持続時間： FNB-V145LI (構成品)
スーパーセーブ機能 ON 時： 約 16 時間
スーパーセーブ機能 OFF 時：約 13 時間
(送信出力 5W 時、送信5、受信5、待ち受け 90 の割合で運用時)
電 源 電 圧： DC 7.4V ± 10%
温湿度範囲： 温度 － 20℃～＋ 60℃
湿度 95% (35℃)
本 体 寸 法： 56mm (幅) × 100mm (高) × 31mm (奥行) (突起物を含まず)
本 体 重 量： 約 260g
(FNB-V145LI、アンテナ、MIC/SP 端子カバーを含む)

○ 定格を予告なく変更することがあります。
○ RoHS 指令準拠

音声圧縮 (符号化) 方式について

本機は、米国 DVS 社の開発した AMBE (Advanced Multi-Band Excitation) 方式を採用し、AMBE+ 2™ に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.
U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

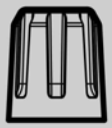
本機ディスプレイに表示されるフォントは、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が製作、販売したリコービットマップフォントを使用しています。

オプション一覧表

品 名	型 番
薄型リチウムイオン電池パック 1260 mAh	FNB-V144LI
標準型リチウムイオン電池パック 2100 mAh（構成品と同等）	FNB-V145LI
急速充電器セット（CD-70＋PA-55A）	VAC-70
ベルトクリップ（構成品と同等）	CLIP-20
スタビーアンテナ（構成品と同等）	ATU-12J
ウルトラスタビーアンテナ	ATU-17J
防水型スピーカーマイク	MH-66A7A
コンパクトスピーカーマイク	MH-82A7A
スピーカーマイク	MH-83A7A

詳細等はカタログ及びホームページ URL ： http://standard-radio.jp を参照してください。

キー操作早見表

<table>
<tr><th rowspan="2">キー / スイッチ / ツマミ</th><th colspan="3">動 作</th></tr>
<tr><th>まわす</th><th>短押し</th><th>長押し</th></tr>
<tr><td> </td><td>電源 ON/OFF
（音量調節）</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="4">  </td><td>右（チャンネルアップ）</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>簡易リスト
拡張機能
宛先選択　選択</td></tr>
<tr><td>左（チャンネルダウン）</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>簡易リスト
拡張機能
宛先選択　選択</td></tr>
<tr><td>PTT</td><td>—</td><td>送信</td><td>送信</td></tr>
<tr><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2">—</td><td>簡易リスト移行</td><td rowspan="2">個別通信時
宛先設定</td></tr>
<tr><td>簡易リスト
拡張機能
宛先選択　確定</td></tr>
<tr><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2"></td><td>簡易リスト
拡張機能
宛先選択　選択</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>右桁移動</td></tr>
<tr><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2">—</td><td>簡易リスト
拡張機能
宛先選択　選択</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>左桁移動</td></tr>
<tr><td> </td><td>—</td><td>一つ前に戻る</td><td>キーロック</td></tr>
<tr><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2">—</td><td>録音</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>簡易リスト
拡張機能
宛先選択　アップ</td></tr>
<tr><td rowspan="2"> </td><td rowspan="2">—</td><td>スキャン</td><td rowspan="2">バックライト</td></tr>
<tr><td>簡易リスト
拡張機能
宛先選択　ダウン</td></tr>
<tr><td>
（電源スイッチ）</td><td>—</td><td>—</td><td>拡張機能移行</td></tr>
</table>

索 引

番号

2 時間オフタイマー 25, 71

A

ACC 電源 65

C

CALL. 20, 36
CD-70 . . . . . 17, 74
CH 空き通知 21, 30, 65

F

FNB-V144LI. 15, 16, 26, 74
FNB-V145LI. 5, 15, 16, 73, 74

I

IP67 . . . . . 5, 8

L

LED インジケーター 16, 18, 21

M

MIC/SP 端子 5, 18, 65, 66

P

PA-55A 16, 17, 74
PTT スイッチ. 18
PTT ホールド. 25, 31, 68

T

TX AGC 67

U

UC (ユーザーコード) 通信 20 34
UC通信機能 22, 34

V

VOX 機能 25, 55, 66

あ

アンサーバック 26, 30, 42
安全上のご注意 7
アンテナ端子. 18
アンテナの取り付け. 13

い

イコライザー機能 25, 53
イヤホン / スピーカーマイク
の特性補正 . 25, 31, 66
インテリジェント
オーディオライト機能 . 25, 26, 54

お

オプション 74
音声圧縮 (符号化) 方式について 73
音声案内. 25, 31, 59, 69
音量調節ツマミ. 18, 22, 61

か

外部アクセサリタイプ. 66
外部マイクロホンの取り付け 66
各機能の設定. 25
拡張機能. 24, 25, 28, 30, 33
各部の名称と機能 18
簡易リスト 25, 26, 27
管理番号表示. 33

き

キー操作早見表 75
キーロック機能. 19, 24
キーロックの条件を変更 24
キャリアセンス機能 21, 23
緊急宛先. 28, 48
緊急アラーム機能 25, 45
緊急応答宛先. 28, 49
緊急個別. 28, 49
緊急を“一斉”で知らせる方法 . . 45

く

グループベル. 28, 41

こ

構成品. 5
コールチャンネル. 20
コールモード. 25, 28
故障かな？と思う前に 72
個別通信機能. 25, 38
個別ベル. 28, 40, 41
コントラスト. 25, 31, 61

さ

左右選択キー 19

し

自局情報. 25, 26, 41
弱電界アラーム. 30, 64
充電方法. 16
受信ビープ 25, 63

上空用チャンネル 20, 25, 31, 70
す
スーパーセーブ 15, 31, 70
スキャン PTT 21, 25, 31, 58
スキャン機能 18, 25, 31, 56
スキャンタイプ 31, 57
スピーカー 19
せ
セカンダリ PTT 25, 31, 59, 69
設定リセット 31, 71
セットモード 25, 30, 32
セミ VOX オペレーション機能 54
選択 / 機能キー 19
そ
送信出力 . . 15, 19, 22, 25, 30, 67, 73
送信ビープ 25, 63, 70
ち
着信履歴 26, 42, 43
チャンネル空き通知 21, 30, 65
チャンネル構成 20
つ
通話のしかた 22, 35, 37
て
定格 73
ディスプレイ 19
デュアルレシーブ 31, 56, 57
デュアルレシーブスキャン 56, 57
電源スイッチ 18
電池アラーム 30, 64
電池パック 7, 11, 14
電池パックの取り付け 15
電波干渉 4
め
免責事項 5
の
ノイズキャンセル機能 25, 26, 54
は
バックライト 18, 25, 31, 59, 69
発信履歴 26, 42, 43
ハンドストラップの取り付け 13
ひ
ビープレベル 30, 61
秘話機能 19, 25, 26, 36
ふ
プログラムキー 25, 50, 56, 59, 69
プログラムスキャン 56, 57, 58
へ
ベルトクリップの取り付け 13
ほ
ボイスチャンネルアナウンス 59
防水性能 5
ま
マイク 29, 30
マイクレベル 25, 62
む
無線局登録申請 4, 5
め
メッセージ送信 26, 42, 44
も
戻るキー 19
ゆ
ユーザーコード通信 20, 34
ユーザー同士で交信したい 34
り
リセット 31, 71
リチウムイオン電池パック . . . 5, 14, 74
リピート再生 25, 26, 52
れ
連続送信停止予告音 21
ろ
ロータリースイッチ 18, 22, 24
録音メモ機能 25, 50
わ
ワンタッチボリューム . . . 30, 31, 60, 69

メ モ

〈〈 無料修理規定 〉〉

1. 取扱説明書、本体貼り付けラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合は、保証期間内（お買い上げ日より3年間）無料修理をさせていただきます。
2. 保証期間内に無料修理をご依頼される場合は、お買い上げの販売店へ製品と本保証書をご持参・ご提示の上、お申し付けください。
3. 保証期間内であっても、次の場合には有料となります。
   (1) 本保証書のご提示がない場合。
   (2) 本保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い上げ販売店名の記入がない場合。
   (3) 使用上の誤り、不当な修理・調整・改造による故障およびそれらが原因により生じた故障、または故障の原因が本製品以外の機器にある場合。
   (4) お買い上げ後の取付場所の移動・輸送・落下等による故障および損傷。
   (5) 火災・地震・風水害・落雷・その他の天変地異・異常電圧などによる故障および損傷。
   (6) 他の要因（アンテナの不備・電波障害・設置場所など）により正常に動作しない場合。
   (7) 消耗部品（バッテリーなど）に関するものの交換。
4. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   (This warranty is valid only in Japan.)

● この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがいまして、この保証書によってお客様の法律上の権限を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

開発製造： 株式会社CSR

お客様の個人情報保護について

お客様のお名前・ご住所・電話番号などの個人情報を第三者に開示、または提供することは一切ありません。
お客様の情報は今後、当社の顧客管理のみに使用させていただきます。

STANDARD 保証書 持込修理

お客様の正常な使用状況で万一故障した場合は、「無料修理規定」（裏面参照）により無料修理させていただきます。

お客様へのお願い

お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・トランシーバーの製造番号（本体に記載）をご記入ください。

販売店様へのお願い

お買い上げ日・貴店名・住所・電話番号を記入のうえ、お客様へお渡しください。

※印の欄は、必ずご記入ください。
ご記入の際は、ボールペン等ではっきりと読みやすくご記入ください。

機種名	製造番号（SER NO.）
VXD30	
※ お買い上げ年月日	年　月　日
保証期間（お買い上げ日より）	3年（本体）

■ 修理はお買い上げの販売店へ必ず本保証書を添えてご依頼ください。
■ 修理・調整には計測器を必要とするため、出張修理は行いません。
■ 本保証書は再発行しませんので、大切に保管してください。

※ お客様記入欄

ご住所　〒

お名前

電話番号

※ 販売店

店名

住所

電話番号

キリトル